

運用・管理

システム	5
ログイン	5
パスワードの変更	5
再起動	6
システム時刻の設定	6
システム名の設定	6
システムチェック	7
コマンドライン編集キー	7
コマンド入力時の注意事項	7
コンソールメッセージ	8
次に選択可能なキーワードを表示する「スペース」または「Tab」	8
オンラインヘルプ	9
コマンドライン途中のオンラインヘルプ	10
端末画面の表示行数	11
ファイルシステム	12
物理デバイス	12
ファイルシステム	12
ファイル名	12
ワイルドカード	13
ファイルの操作	13
コンフィグレーション	15
設定の保存と復元	15
アップロード・ダウンロード	17
アップロードとダウンロード	17
本製品へのファイルのダウンロード	17
ネットワーク経由での本製品へのファイルの転送	17
本製品からのファイルのアップロード	18
ネットワーク経由での本製品からクライアント/サーバーへのファイルの転送	18
ログ	20
デフォルトのログ設定	20
syslog サーバーでのログ設定	20
ログ出力先の定義の変更	21
ログの閲覧	21
ログ設定の確認	22

資料編	22
メッセージフォーマット	22
ログレベル	23
ログフィルターの条件指定に使える比較演算子	23
syslog 形式への変換	24
スクリプト	25
SNMP	26
基本設定	26
その他	26
SNTP	29
基本設定	29
付録	30
定義済みのタイムゾーン名一覧	30
ターミナルサービス	32
コンソールターミナルの設定	32
タイムアウト	32
Telnet	32
アクセスフィルター	34
アクセスフィルターの基本設定	34
コマンド例	35
デフォルトアクションの設定例	35
エントリーの作成例	36
設定内容の確認	36
マッチ判定	36
フィルター適用のまとめ	37
HTTP サーバー	39
認証サーバー	40
ユーザー認証処理の順序	40
RADIUS サーバー	40
RADIUS サーバーのアカウントिंग機能	41
コマンドリファレンス編	43
機能別コマンド索引	43
ACTIVATE SCRIPT	46
ADD ACCESS FILTER	47
ADD NTP PEER	49
ADD RADIUS SERVER	50
ADD SNMP COMMUNITY	51
CLEAR FLASH TOTALLY	53
CLS	54
COPY	55
CREATE CONFIG	56
CREATE SNMP COMMUNITY	57

DELETE ACCESS FILTER ENTRY	59
DELETE FILE	61
DELETE NTP PEER	62
DELETE RADIUS SERVER	63
DELETE SNMP COMMUNITY	64
DESTROY SNMP COMMUNITY	66
DISABLE ACCESS FILTER	67
DISABLE FTP SERVER	68
DISABLE HTTP SERVER	69
DISABLE LOG	70
DISABLE LOG OUTPUT	71
DISABLE NTP	72
DISABLE RADIUS ACCOUNTING	73
DISABLE SNMP	74
DISABLE SNMP COMMUNITY	75
DISABLE TELNET SERVER	76
ENABLE ACCESS FILTER	77
ENABLE FTP SERVER	78
ENABLE HTTP SERVER	79
ENABLE LOG	80
ENABLE LOG OUTPUT	81
ENABLE NTP	82
ENABLE RADIUS ACCOUNTING	83
ENABLE SNMP	84
ENABLE SNMP COMMUNITY	85
ENABLE TELNET SERVER	86
FLUSH LOG OUTPUT	87
HELP	88
LOGOFF	90
PURGE LOG	91
PURGE NTP	93
RESET NTP	94
RESTART	95
SET ACCESS FILTER	96
SET ACCESS FILTER ENTRY	97
SET ASYN	99
SET AUTHENTICATION	100
SET CONFIG	102
SET CONSOLE	104
SET FTP LISTENPORT	105
SET HTTP LISTENPORT	106
SET LOG OUTPUT	107

SET NTP	110
SET PASSWORD	113
SET RADIUS	114
SET RADIUSACCOUNTING	116
SET SNMP COMMUNITY	118
SET SNMP LISTENPORT	120
SET SYSTEM	121
SET TELNET	123
SET TIME	125
SHOW ACCESS FILTER	127
SHOW ASYN	129
SHOW AUTHENTICATION	130
SHOW CONFIG	132
SHOW CONSOLE	134
SHOW DEBUG	136
SHOW FILE	137
SHOW FTP	139
SHOW HTTP SERVER	140
SHOW INTERFACE	141
SHOW LOG	144
SHOW LOG COUNTER	147
SHOW LOG OUTPUT	149
SHOW LOG STATUS	151
SHOW NTP	153
SHOW RADIUS	155
SHOW RADIUSACCOUNTING	157
SHOW SNMP	159
SHOW SNMP COMMUNITY	162
SHOW SYSTEM	164
SHOW TELNET	167
SHOW TIME	168

システム

本製品は設定のためのコマンドプロセッサ（コマンドラインインターフェース）を備えています。ここではコマンド入力に関する基本的な事柄について説明します。

ログイン

本製品に対する設定は、コンソールポート（非同期シリアルポート）に接続したコンソールターミナル、または、ネットワーク上の Telnet クライアントから行います。

- ✧ Telnet を使用するには、あらかじめコンソールターミナルからログインし、本製品に IP アドレス等を設定しておく必要があります。IP の設定については「IP」/「概要・基本設定」をご覧ください。

本製品に接続すると、「login: 」というログインプロンプトが表示されます。コンソールターミナルを接続してもログインプロンプトが表示されない場合は、「Enter」キーを何度か押してみてください。

「login:」に対してユーザー名「manager」を、「Password:」に対してパスワードを入力します（ご購入時の初期パスワードは「friend」です）。

```
login: manager
Password: friend（実際には文字数分*が表示されます）

Manager >
```

ログインに成功すると、コマンドプロンプトが表示されます。

```
Allied Telesis CentreCOM GS916SS Ethernet Switch
Ethernet Switch Software: Version 1.4.1
MAC Address: 00-09-16-00-00-02
Running 3mins 32secs

Manager >
```

- ✧ デフォルトのパスワードを使い続けることはセキュリティ上好ましくありませんので、初回ログイン時に変更することをお勧めします。詳細は「パスワードの変更」をご覧ください。
- ✧ Telnet 接続の場合、3 回ログイン認証に失敗すると強制切断します。この設定は変更できません。
- ✧ Telnet 接続の場合、ログインプロンプトが表示されてから 1 分以内にログインしないと、Telnet セッションが切断されます。この設定は変更できません。

パスワードの変更

パスワードは SET PASSWORD コマンド（113 ページ）で変更します。

```
Manager > set password
```

```
Old password: friend （入力した文字数分*で表示されます）
New password: openENDS （入力した文字数分*で表示されます）
Confirm      : openENDS （入力した文字数分*で表示されます）
```

```
Password has been changed.
```

```
Manager >
```

- 変更したパスワードは設定ファイルには保存されません。

再起動

システムを再起動するには RESTART コマンド（95 ページ）を使います。

- 再起動を実行する前に、現在の設定内容をファイルに保存したかどうかをご確認ください。設定の保存については、「コンフィグレーション」をご覧ください。

本製品の再起動はコールドスタートです。これは、ハードウェア的にリセットをかけ、自己診断テストの実行、ソフトウェアのロードを行った後、起動スクリプトを読み込んで起動します。

システム時刻の設定

システムの日付と時刻をあわせるには SET TIME コマンド（125 ページ）を使います。

- 本製品はリアルタイムクロックを内蔵していないため、システムを再起動するたびに時刻をあわせる必要があります。これは、SET TIME コマンド（125 ページ）を使って手動で行うこともできますが、NTP サーバーにアクセスできる環境では、NTP の利用をおすすめします。詳細は「運用・管理」/「NTP」をご覧ください。

日付は「年-月-日」、時刻は「時:分:秒」の形式で指定します。

日付と時刻を設定するには次のようにします。ここでは 2008 年 3 月 3 日 15 時に設定します。

```
SET DATE=2008-03-03 TIME=15:00:00 ↵
```

時刻だけを修正します。

```
SET TIME=15:02:00 ↵
```

日付だけを修正します。

```
SET DATE=2008-03-03 ↵
```

現在の日付と時刻を確認するには SHOW TIME コマンド（168 ページ）を実行します。

システム名の設定

システム名を設定すると、コマンドプロンプトにシステム名が表示されるようになります。SNMP（Simple Network Management Protocol）を使用しない場合であっても、複数のシステムを管理しているときは、各システムに異なる名前を設定しておくと、どのシステムにログインしているのかがわかりやすくなり便利

です。

システム名を設定するには SET SYSTEM コマンド (121 ページ) を使います。

```
SET SYSTEM NAME=GS916SS ↵
```

※ システム名に空白 (スペース) を含む場合は、システム名を " " で囲んでください。

システムチェック

システムの基本情報を確認するための各種コマンドを紹介します。

システムの全般的な情報は SHOW SYSTEM コマンド (164 ページ) で確認できます。

システムログは SHOW LOG コマンド (144 ページ) で確認できます。詳細については「ログ」をご覧ください。

コマンドライン編集キー

コマンドラインでは、以下の編集機能を使うことができます (VT100 互換の端末エミュレーターが必要です)。

コンソールターミナルのキー	機能
または Ctrl+B	1 文字左に移動
または Ctrl+F	1 文字右に移動
Delete	カーソルの上の文字を削除
Ctrl+D	カーソルの上の文字を削除またはログアウト
Backspace または Ctrl+H	カーソルの左にある文字を削除
Ctrl+A	行頭に移動
Ctrl+E	行末に移動
Ctrl+U	コマンド行を消去
Ctrl+K	カーソルの上より右の文字をすべて削除
Ctrl+C	コマンドの実行を停止しプロンプトに戻る (対応コマンドのみ)
または Ctrl+P	コマンド履歴をさかのぼる
または Ctrl+N	コマンド履歴を進める
F1 または ?	オンラインヘルプを表示
Space	入力途中の文字列の補完及び次に入力可能なキーワードの一覧表示
Tab または Ctrl+I	Space と同様の機能に加えて入力補助情報の表示 (対応コマンドのみ)

表 1:

コマンド入力時の注意事項

コマンド入力時には以下に注意してください。

1 行で入力できるコマンドの最大文字数はスペースを含めて 512 文字です。コマンド行が長くなり 1 行

におさまらない場合は、コマンドの省略形を使うか、コマンドを複数行に分けてください（ADD と SET など）。

「ADD」、「IP」などのキーワード（予約語）は大文字・小文字を区別しないので、どちらで入力してもかまいません。一方、パラメーターとして指定する値の中には、パスワードのように大文字・小文字を区別するものと、ユーザー名のように大文字・小文字を区別しないものがあります。各コマンドの説明でご確認の上入力してください。

コマンドは一意に識別できる範囲で省略可能です。例えば、SHOW FILE コマンド（137 ページ）は次のように省略して入力できます。

```
SH FI ↓
```

コマンドの実行結果は（エラーがなければ）すぐに本製品に反映されますので、再起動などを行う必要はありません。（VLAN モード変更時、ポートランキング設定（変更）時を除く。）

設定内容は再起動すると消えてしまいますので、再起動後にも同じ設定を使いたいときは CREATE CONFIG コマンド（56 ページ）でファイルに保存し、SET CONFIG コマンド（102 ページ）で、保存した設定スクリプトが次回起動時に読み込まれるように設定してください。詳細は「コンフィグレーション」などを参考にしてください。

コンソールメッセージ

コマンド入力後、実行結果や構文エラーを知らせるメッセージが表示されることがあります。

```
Manager > set system name=sales

Operation successful.

Manager > set systemname=sales

Command syntax error.

Manager > set system

Parameter error or Invalid value.
```

次に選択可能なキーワードを表示する「スペース」または「Tab」

コマンドの入力途中で「スペース」または「Tab」キーを押すと、次に選択可能なキーワード（コマンド名やパラメーター名、オプション名）の一覧が表示されます。

例えば、コマンドラインの先頭で「Tab」キーを押すと次のように表示されます（「Tab」は表示されません）。

```
Manager >
ACTIVATE  ADD      CLEAR    CLS      COPY     CREATE   DELETE   DESTROY
DISABLE   ENABLE    FLUSH    HELP     LOGOUT   PING     PURGE    RESET
```



```
RESTART    SET          SHOW
Manager >
```

列挙されているのが、コマンドラインの先頭キーワードとして有効な単語の一覧です（表示項目はソフトウェアのバージョンによって異なる可能性があります）。

- 表示されるキーワードの中には、サポート対象外のものも含まれる可能性があります。詳細はリリースノートなどご確認ください。

つぎに、コマンドラインで上記のキーワード一覧の「SHOW」を入力し、さらに半角スペースを一文字入力した上で再度「Tab」（または「スペース」キー）を押すと、次のように表示されます。

- 何らかの文字列を入力した後で「Tab」または「スペース」キーを押すときは、文字列の後ろに半角スペースを入力してから各キーを押す必要があります（半角を入力しなくても2度各キーを押すと自動的に半角スペースが表示されます）。

```
Manager > show
ACCESS          ASYN          AUTHENTICATION  CONFIG
CONSOLE         DATE          FTP             HTTP
IGMPSNOOPING    IP            LOG             NTP
PASSWORD        PORTAUTH      QOS             RADIUS
RADIUSACCOUNTING SNMP          SWITCH          SYSTEM
TELNET          TIME          VLAN
Manager > show
```

オンラインヘルプ

オンラインヘルプを見るには、HELP コマンド（88 ページ）を使います。

オプションなしで HELP コマンド（88 ページ）を実行すると、ヘルプファイルのトップページが表示されます。

```
HELP ↵
```

```
Manager > help

GS908SS/GS916SS/GS924SS オンラインヘルプ

This online help is written in Japanese.

ヘルプは次のトピックを説明しています。
入力は大文字の部分だけでかまいません。（"HELP KEYBIND" は "H K"と省略可）

Help Accessfilter      アクセスフィルター
Help Configuration     コンフィグレーション
Help FDb               フォワーディングデータベース
Help Filesystem        ファイルシステム
Help Http              HTTP サーバー
Help IP                IP
```

Help IGmpsnooping	IP マルチキャスト
Help LOG	ログ
Help Ntp	NTP
Help QOs	QoS
Help Portauth	ポート認証
Help Radius	認証サーバー
Help SYstem	システム
Help SScript	スクリプト
Help SNmp	SNMP
Help SWitch	スイッチング
Help LOPDetection	LDF 検出
Help STOrmdetection	受信レート検出
Help Terminal	ターミナルサービス
Help Vlan	バーチャル LAN
Help Keybind	キーバインド

トップページの一覧から表示させたいトピックを指定すると、該当項目が表示されます。

HELP IP ↵

ヘルプファイルはファームウェアファイルに組み込まれて配布されています。

F1 キーを押してもオンラインヘルプを表示できます。例えば、V キー、(半角スペースを入れないで) F1 キーの順に入力すると、バーチャル LAN のヘルプが表示されます (「F1」は表示されません)。

Manager > V F1

GS908SS/GS916SS/GS924SS オンラインヘルプ

バーチャル LAN

Help ADd Vlan port	VLAN にポートを追加
Help CReate Vlan	VLAN を作成
Help DELeTe Vlan port	VLAN からポートを削除
Help DEStroy Vlan	VLAN を削除
Help SEt Vlan Mode	VLAN のモードを変更
Help SEt Vlan Port	VLAN 所属ポートのタグ付き・タグなし設定を変更
Help SHow Vlan	VLAN 情報を表示
Help SHow Vlan Mode	VLAN のモードを表示

コマンドライン途中のオンラインヘルプ

コマンドラインの途中で「F1」キーまたは「?」キーを入力すると、そのコマンドのオンラインヘルプを表示します (「F1」は表示されません)。

Manager > set time F1

システム時計の日付と時刻を設定します。

SET [TIME=time] [DATE=date]

[time] 時刻 (hh:mm:ss の形式。hh は時 (0~23)、mm は分 (0~59)、ss は秒 (0~59))
 [date] 日付 (yyyy-mm-dd の形式。yyyy は西暦年、mm は月 (1~12)、dd は日 (1~31))

コマンドが特定できない場合は、Unknown help command. と表示されます。(「?」は表示されません)。

```
Manager > show f?

Unknown help command.

Manager > show ft?

FTP サーバーの設定情報を表示します。

SHOW FTP
```

端末画面の表示行数

デフォルトの端末設定では、1 画面の表示行数が 22 に設定されています。コマンドの出力結果が 22 行よりも長い場合は 21 行ごとに表示が一時停止し、最下行に次のようなメッセージが表示され、キー入力待ち状態になります。

```
--More--  (<space> = next page, <CR> = one line, C = continuous, Q = quit)
```

ここでは次のキー操作が可能です。

Space	次の 1 ページを表示します。
Enter	次の 1 行を表示します。
c	残りすべてを一度にスクロール表示します。PING コマンド、SHOW LOG コマンド、SHOW SWITCH FDB コマンドは、Ctrl+C でスクロール表示を中止できます。
q	表示を中止し、プロンプトに戻ります。

表 2:

一度表示された行をさかのぼることはできません。

ファイルシステム

本製品の 2 次記憶装置とファイルシステムについて説明します。

物理デバイス

本製品は、システム再起動後もデータが保持される 2 次記憶装置として、フラッシュメモリーを搭載しています。

フラッシュメモリー上には独自のファイルシステムが構築されており、ファイル単位でデータにアクセスすることが可能です。詳しくは次節「ファイルシステム」をご覧ください。

フラッシュメモリーは一般的なコンピュータのハードディスクに相当する記憶装置です。通常のファイル操作はこのメモリーに対して行います。フラッシュメモリーには、ファームウェアファイル、設定スクリプトファイルなどが格納されます。

ファイルシステム

本製品では、フラッシュメモリー上にファイルシステムが構築されており、物理デバイス上のデータを「ファイル」としてアクセスすることが可能です。

ファイル名

ファイル名は次の形式で表されます。

filename.ext

filename	ファイル名。文字数は拡張子、および拡張子の区切り文字ピリオド [.] を含め、1 ~ 20 文字。指定可能文字は、半角英数字とハイフン [-]、アンダーバー [_]、ピリオド [.]、開始丸カッコ [(] および終了丸カッコ [)] です。大文字・小文字を区別します。
ext	拡張子。ファイル名には必ず拡張子をつける必要があります。指定可能文字は、半角英数字とハイフン [-]、アンダーバー [_]、ピリオド [.]、開始丸カッコ [(] および終了丸カッコ [)] です。大文字・小文字を区別します。

表 3:

次におもな拡張子の一覧を示します。

拡張子	ファイルタイプ
cfg	設定スクリプトファイル。システムの設定情報を保存します。scp との間に明確な区別はありませんが、慣例として設定内容を保存するスクリプトには cfg を使います。

scp	実行スクリプトファイル。cfg との間に明確な区別はありませんが、慣例としてトリガースクリプトやバッチファイルのようなスクリプトには scp を使います。
pkg	ファームウェアファイル

表 4:

- フラッシュメモリー上のファイルシステムには、ディレクトリー（フォルダー）の概念はありません。したがって、コマンドでファイル名を指定するときに、「/dirA/subdirA/test.cfg」のようなディレクトリーパスを含む指定は不要です。

ワイルドカード

ファイル进行操作するコマンドの中には、ワイルドカード（*）を使って複数のファイルを一度に指定できるものがあります。ワイルドカード（*）は「任意の文字列」を示すもので、次のように使います。

ファイル名が test から始まるファイルをすべて表示

```
SHOW FILE=test* ↵
```

テキストファイル（.txt）だけを一覧表示

```
SHOW FILE=* .txt ↵
```

- ワイルドカード（*）を使ってファイルを削除するときは、必要なファイルまで削除してしまわないよう十分にご注意ください。
- ワイルドカード（*）はファイル名の先頭または最後のどちらかに 1 つだけ使用できます。複数指定（*_test.*）や中間一致（foo*.cfg）は使えません。

ワイルドカードが使えるコマンドは以下です。

- DELETE FILE コマンド（61 ページ）
- SHOW FILE コマンド（137 ページ）

ファイルの操作

おもなファイル操作についてコマンド例を示します。

ファイルの一覧は、SHOW FILE コマンド（137 ページ）で表示できます。

```
SHOW FILE ↵
```

特定ファイルの一覧を見たいときはワイルドカードを使います。

```
SHOW FILE=* .scp ↵
```

ファイルの内容を見るには、SHOW FILE コマンド（137 ページ）で（ワイルドカードを用いない）実際のファイル名を指定します。ただし、SHOW FILE コマンド（137 ページ）で内容を表示できるのはテキスト

ト形式のファイル (.txt、.scp、.cfg など) のみです。

```
SHOW FILE=mitai.cfg ↵
```

ファイルを削除するには DELETE FILE コマンド (61 ページ) を使います。ワイルドカード (*) で複数ファイルをまとめて削除することも可能です。

```
DELETE FILE=iranai.cfg ↵
```

```
DELETE FILE=*.txt ↵
```

＼ ワイルドカード (*) を使ってファイルを削除するときは、必要なファイルまで削除してしまわないよう十分にご注意ください。

＼ 削除したファイルを元に戻すことはできません。ファイル操作時は十分注意してください。

ファイルをコピーするには COPY コマンド (55 ページ) を使います。

```
COPY current.cfg backup.cfg ↵
```

コンフィグレーション

本製品では、コマンド入力によって設定した内容をテキスト形式のスクリプトファイルとして保存できます。さまざまな設定を異なる名前のファイルとして保存しておき、必要に応じて切り替えて使うことが可能です。

設定の保存と復元

コンソールなどから設定した内容はメモリー上にあるため、システムを再起動すると消えてしまいます。次回以降も同じ設定を使いたい場合は、設定内容をスクリプトファイルに保存する必要があります。

メモリー上の設定内容をファイルに保存するには、CREATE CONFIG コマンド (56 ページ) を使います。ファイルの拡張子は「.cfg」か「.scp」とします。例えば、現在の設定内容を「mylan.cfg」に保存するには、次のように入力します。指定したファイルが存在しない場合は新規に作成され、すでに存在する場合は上書きされます。

```
CREATE CONFIG=mylan.cfg ↵
```

本コマンドで作成したファイルには、設定内容がスクリプト形式で保存されます。ただし、スクリプトの内容は一定の基準にしたがった書式に変換されているため、コマンドラインで入力したものとまったく同じではありません (例えば、長い行は ADD と SET のように複数行に分けて保存されます)。しかし、保存されている情報は同じです。

設定をファイルに保存しただけでは、再起動時に自動復元されません。SET CONFIG コマンド (102 ページ) を使って、保存した設定スクリプトが次回起動時に読み込まれるよう設定する必要があります。起動時に読み込まれる設定スクリプトのことを「起動スクリプト」、「起動ファイル」、「起動時設定ファイル」などと呼びます。

```
SET CONFIG=mylan.cfg ↵
```

現在の起動スクリプトを確認するには、オプションなしで SHOW CONFIG コマンド (132 ページ) を実行します。

```
SHOW CONFIG ↵
```

現在のメモリー上の設定内容を確認するには、SHOW CONFIG コマンド (132 ページ) に DYNAMIC オプションを付けて実行します。設定内容がスクリプト形式で表示されます。

```
SHOW CONFIG DYNAMIC ↵
```

DYNAMIC オプションにモジュール名を指定することにより、特定モジュールの設定だけを確認することもできます。例えば、VLAN の設定だけを確認するには次のように入力します。

```
SHOW CONFIG DYNAMIC=VLAN ↵
```

次回、空の設定で起動させたいときは、起動スクリプトを「なし」にします。これは、設定を一からやりなおしたいときなどに便利です。SET CONFIG コマンド (102 ページ) に NONE を指定してください。

SET CONFIG=NONE ↵

アップロード・ダウンロード

本製品は、FTP (File Transfer Protocol)、Web GUI を利用したファイル転送が可能です。

ㄟ FTP での同時確立可能なセッション数は1セッションのみです。

アップロードとダウンロード

本書では、本製品からサーバーなどへのファイルの転送をアップロード、サーバーなどから本製品へのファイル転送をダウンロードと表現します。

スクリプトファイルやファームウェアファイルを本製品へダウンロードするには、FTP によるダウンロードと Web GUI を介したダウンロードがあります。保存先のファイルシステムに空き容量があれば、任意のファイルを保存できます。

また、本製品の設定ファイルなどを本製品から PC などへアップロードする場合も、FTP によるアップロード、または Web GUI によるアップロードで行います。

本項では、FTP によるダウンロードおよびアップロードを解説します。Web GUI によるダウンロードおよびアップロードについては、「Web GUI」/「マネージメント」をご覧ください。

本製品へのファイルのダウンロード

FTP で PC やサーバーから本製品へのファイルの転送ができます。なお、転送できるファイルはファームウェアファイル (.pkg) とテキストファイル (.cfg、.scp や.txt など) です。

ネットワーク経由での本製品へのファイルの転送

ネットワーク経由でファイル転送を行うためには IP の設定が必要です。詳細は「IP」/「概要・基本設定」をご覧ください。

FTP クライアントからファイル myfile.cfg を本製品 (192.168.10.5) にダウンロードします。ここでは、Windows のコマンドプロンプトで実行しているものとします。

```
C:\> FTP 192.168.10.5 ㄱ
```

```
Connected to 192.168.10.5.
```

```
220 FTP server ready.
```

```
User (192.168.10.5:(none)): manager ㄱ
```

```
331 Password required for manager
```

```
Password:friend (表示されません) ↵
```

```
230 User logged in.
```

```
ftp> PUT myfile.cfg ↵
```

```
200 PORT command successful.
```

```
150 Opening ASCII mode data connection for myfile.cfg.
```

```
226 Transfer Complete.
```

```
ftp: 573 bytes sent in 0.00Seconds 546000.00Kbytes/sec.
```

```
ftp>
```

- ※ FTP でファームウェアをダウンロードする場合は、PUT コマンドの前に BINARY コマンドを実行し、@firmware ディレクトリーに移動し、その後 PUT コマンドを実行してください。

本製品からのファイルのアップロード

FTP で本製品から PC やサーバーへのファイルの転送ができます。なお、転送できるファイルはテキストファイル (.cfg、.scp や.txt など) です。

ネットワーク経由での本製品からクライアント/サーバーへのファイルの転送

ネットワーク経由でファイル転送を行うためには IP の設定が必要です。詳細は「IP」/「概要・基本設定」をご覧ください。

本製品 (192.168.10.5) から FTP クライアントに、ファイル myfile.cfg をアップロードします。ここでは、Windows のコマンドプロンプトで実行しているものとします。

```
C:\> FTP 192.168.10.5 ↵
```

```
Connected to 192.168.10.5.
```

```
220 FTP server ready.
```

User (192.168.10.5:(none)): manager ↵

331 Password required for manager

Password:friend (表示されません) ↵

230 User logged in.

ftp> GET myfile.cfg ↵

200 PORT command successful.

150 Opening ASCII mode data connection for myfile.cfg.

226 Transfer Complete.

ftp: 546 bytes received in 0.03Seconds 17.61Kbytes/sec.

ftp>

ログ

本製品のログ機能について説明します。

ログ機能はデフォルトで有効になっており、メモリー（RAM）上に保存されるよう設定されています。メモリー上のログは、SHOW LOG コマンド（144 ページ）で見ることができます。RAM の代わりに syslog サーバーにも転送できます。また RAM と syslog の両方にログを保存することもできます。メッセージフィルターを使って、特定の条件を満たすメッセージのみを保存することも可能です。

- 本製品はリアルタイムクロックを内蔵していないため、システムを再起動するたびに時刻をあわせる必要があります。これは、SET TIME コマンド（125 ページ）を使って手動で行うこともできますが、NTP サーバーにアクセスできる環境では、NTP の利用をおすすめします。

デフォルトのログ設定

ご購入時の状態では、出力先「TEMPORARY」に、以下の基準でログメッセージを保存します。

- ログレベル 3（INFO）以上のメッセージを RAM 上に 3000 件まで記録。電源オンの間だけ保持される。デフォルトで有効

ログは SHOW LOG コマンド（144 ページ）で見ることができます。

SHOW LOG ↓

RAM 上のメッセージの削除は、FLUSH LOG OUTPUT コマンド（87 ページ）で実行します。

FLUSH LOG OUTPUT ↓

ログ機能に関する設定、ログメッセージ、カウンターの削除は PURGE LOG コマンド（91 ページ）で実行します。出力先を指定しなかった場合、ログ機能の設定がデフォルトに戻り、ログメッセージはすべて消去されます。RAM 上のログ定義等を削除するには次のように設定します。

PURGE LOG=TEMPORARY ↓

syslog サーバーでのログ設定

RAM に保存されたメッセージは本製品の再起動などにより消滅してしまいます。RAM 以外に、syslog サーバーにログを出力する方法もあります。このためには ENABLE LOG OUTPUT コマンド（81 ページ）で最初に出力先を定義し、SET LOG OUTPUT コマンド（107 ページ）で syslog サーバーの IP アドレスを設定します。

syslog サーバーにログを転送します。

ENABLE LOG OUTPUT=SYSLOG ↓

SET LOG OUTPUT=SYSLOG SERVER=192.168.10.5 ↓

- ※ 指定した出力先へのログ出力を無効に設定する場合には、DISABLE LOG OUTPUT コマンド (71 ページ) を使用します。

syslog サーバーがリモートからの接続を受け付けるよう設定されていれば、本製品が生成するすべてのログメッセージが syslog サーバーに送られ、記録されるようになります。syslog サーバー上で各メッセージがどのように処理されるかは、syslogd の設定ファイル /etc/syslog.conf の内容によって決まります。syslog サーバーの詳細については、サーバーシステム上のマニュアルページ syslogd(8)、syslog.conf(5)、syslog(1)、logger(1) 等をご参照ください。

ログ出力先の定義の変更

一度作成した出力先定義の内容を変更したいときは、SET LOG OUTPUT コマンド (107 ページ) を使います。例えば、出力先の syslog サーバーアドレスを変更したいときは次のように設定します。

```
SET LOG OUTPUT=SYSLOG SERVER=192.168.10.100 ↵
```

ログのメッセージレベルを 5 (IMPORTANT) 以上に設定します。

```
SET LOG OUTPUT=TEMPORARY SEVERITY=>5 ↵
```

ログの閲覧

メモリー (RAM) 上のログを見るには SHOW LOG コマンド (144 ページ) を使います。

すべてのログを表示します。

```
SHOW LOG ↵
```

最新のログだけを表示します。

```
SHOW LOG TAIL ↵
```

TAIL パラメーターに数値を指定すれば、指定した数の最新のログを表示できます。省略時は最新の 20 件が表示されます。

```
SHOW LOG TAIL=50 ↵
```

逆順 (新しい順) にログを表示させるには REVERSE を使います。通常は古い順に表示されます。

```
SHOW LOG REVERSE ↵
```

REVERSE パラメーターに数値を指定すれば、指定した数の最新のログを新しい順に表示できます。

```
SHOW LOG REVERSE=20 ↵
```

SET LOG OUTPUT コマンド (107 ページ) でこれらの出力先定義の内容を変更することにより、保存されるメッセージの条件を変更できます。

保存されるログメッセージのログレベルを2 (DETAIL) 以上に変更するには、次のように設定します。

```
SET LOG OUTPUT=TEMPORARY SEVERITY=>2 ↵
```

比較演算子については「ログフィルターの条件指定に使える比較演算子」を、ログレベルの一覧については「ログレベル」をご覧ください。

ログ設定の確認

ログの出力先定義は SHOW LOG OUTPUT コマンド (149 ページ) で確認します。

```
Manager > show log output
```

Output	Type	Status	Server	Port	Msg	LogLv	Facility
TEMPORARY	RAM	Enabled	-	-	3000	>3	-
SYSLOG	SYSLOG	Disabled	Not set	514	-	>3	DEFAULT

ログ機能の設定情報は SHOW LOG STATUS コマンド (151 ページ) で確認します。

```
Manager > show log status
```

Log System Status	

Log Module Status	Enabled
Log Message Generation	Enabled
Log Message Output	Enabled
Syslog Output	Disabled
Next Message ID	6
Number of Output Definitions ...	2

資料編

メッセージフォーマット

ログメッセージは下記のフィールドで構成されています。ただし出力時には、出力先定義の内容により、一部の内容だけが表示されたり、表示形式が変換されたりすることがあります。各内容の () は本製品のログで表示される際の表示名です (IP アドレスは本製品のログでは表示されません)。

内容	説明
メッセージの生成日 (Days)	システム起動時からの日数
メッセージの生成時刻 (Time)	システム起動時からの経過時間
ログレベル (Lv)	ログレベル
ログの内容 (Message)	メッセージ本文

表 5: NTP モジュール無効時

内容	説明
メッセージの生成日 (Date)	NTP サーバーから取得した日付
メッセージの生成時刻 (Time)	NTP サーバーから取得した時刻
ログレベル (Lv)	ログレベル
ログの内容 (Message)	メッセージ本文

表 6: NTP モジュール有効時

- ※ NTP モジュールが有効であっても、NTP サーバーからの情報取得に失敗した場合は、デフォルト時間の 2005 年 1 月 1 日の日付と、2005 年 1 月 1 日 0:0:0 からの経過時間を表示します。

ログレベル

ログメッセージは、イベントの重要度によって次のように分類されます。

ログレベル	呼称	説明
7	CRITICAL	きわめて重大な障害が発生している
6	URGENT	緊急を要する情報。障害が発生し、システムの動作に影響を与える（与えた）可能性がある
5	IMPORTANT	管理者の注意を要する重要な情報。障害の可能性はある
4	NOTICE	管理者の注意を要する可能性をはらむ情報
3	INFO	各種イベントの通知。通常運用を示すもので緊急性はない
2	DETAIL	詳細な情報。通常運用時には無視できるが、有効な情報を含む可能性あり
1	TRIVIAL	さらに詳細な情報
0	DEBUG	デバッグ用のきわめて詳細な情報。大量のメッセージが出力される可能性あり

表 7:

ログフィルターの条件指定に使える比較演算子

演算子	例	意味
< (以下)	SEVERITY=<5 (ログレベルが 5 以下)	値が指定値以下の場合にマッチ
> (以上)	SEVERITY=>6 (ログレベルが 6 以上)	値が指定値以上の場合にマッチ
! (等しくない)	SEVERITY!=0 (ログレベルが 0 以外)	値が指定値以外の場合にマッチ
指定なし (等しい)	SEVERITY=7 (ログレベルが 7 と等しい)	値が指定値と等しければマッチ

表 8:

＼ 比較演算子の前には必ず等号 (=) が必要です。

syslog 形式への変換

ログメッセージを syslog サーバーに転送するときは、あらかじめ syslog 形式にメッセージが変換されます。

ログレベルと syslog レベルのマッピング

ログメッセージのログレベルは、syslog の「レベル」に以下の通りマッピングされます。

ログレベル	syslog レベル
7 (CRITICAL)	LOG_EMERG
6 (URGENT)	LOG_ALERT
5 (IMPORTANT)	LOG_CRIT
4 (NOTICE)	LOG_ERR
3 (INFO)	LOG_WARNING
2 (DETAIL)	LOG_NOTICE
1 (TRIVIAL)	LOG_INFO
0 (DEBUG)	LOG_DEBUG

表 9:

スクリプト

スクリプト機能は、あらかじめファイルに記述された一連のコマンドを一括して実行する機能です。スクリプトは設定情報の保存に使うほか、頻繁に行う一連の処理をまとめたシェルスクリプト/バッチファイルのような使い方をしたりと、さまざまな用途が考えられる便利な機能です。

スクリプトファイルは拡張子が.scp か.cfg のファイルで、内容はスイッチの管理コマンドを列挙したテキストファイルです。慣例として、.cfg は設定情報を保存する設定スクリプト、.scp はバッチファイル的なスクリプトに使われますが、明確な区別はありません。

スクリプトファイルを作成するには、次の方法があります。

- COPY コマンド (55 ページ) で別のファイルを複製することにより作成する。

```
COPY system.bak.cfg system.cfg ↵
```

- FTP の PUT コマンド、または FTP ソフトウェアで別のコンピューター上のファイルをダウンロードする。

⚡ ファームウェアアップデート中は FTP セッションを切断しませんので、お使いの FTP クライアントのタイムアウト設定によっては「アップロード失敗」と表示されることがあります。

スクリプトは次のときに実行されます (アップロード・ダウンロードについては、「アップロード・ダウンロード」をご覧ください)。

- コマンドラインから ACTIVATE SCRIPT コマンド (46 ページ) を実行したとき

```
ACTIVATE SCRIPT=gogo.scp ↵
```

- スwitchの起動時 (SET CONFIG コマンド (102 ページ) で指定した起動スクリプトが読み込まれ実行される)

スクリプトが出力した文字列は、通常端末画面に出力されます。

スクリプトファイルの内容を確認するには、SHOW FILE コマンド (137 ページ) を使います。

```
SHOW FILE=myscript.scp ↵
```

SNMP

本製品は、ネットワーク管理プロトコル SNMP (Simple Network Management Protocol) のバージョン 1 (SNMPv1) とバージョン 2c (SNMPv2c) に対応しています。

ただし、トラップ送信機能はサポートしていません。

以下では、コマンドラインインターフェースによる設定方法を説明します。なお、Web GUI では「システム設定」-「SNMP」で設定できます。(詳細は「Web GUI」/「システム設定」をご覧ください。)

基本設定

ここでは、SNMP 機能を利用するために必要な最小限の設定を紹介します。以下の例では、IP の設定は終わっているものとします。

SNMP コミュニティー	viewers (読み出しのみ)
SNMP 管理ステーションの IP アドレス	192.168.11.5

表 10:

1. SNMP エージェントを有効にします。

```
ENABLE SNMP ↵
```

2. CREATE SNMP COMMUNITY コマンド (57 ページ) で、SNMP コミュニティーを作成します。
ここでは、読み出し専用のコミュニティ「viewers」を作成します。

```
CREATE SNMP COMMUNITY=viewers ACCESS=READ MANAGER=192.168.11.5 ↵
```

✎ コミュニティー名は表示のみ大文字と小文字を区別します。

✎ コミュニティー名は SNMP においてパスワードのような役割を果たしますので注意が必要です。書き込み権限のあるコミュニティを作成した場合、コミュニティ名を使用して、スイッチの設定を外部から変更されてしまう可能性があります。

✎ 多くのネットワーク機器や SNMP マネージャーソフトには、慣例として読み出し権限のみを持つコミュニティとして「public」が、書き込み権限を持つコミュニティとして「private」がデフォルトで設定されています。

3. ENABLE SNMP COMMUNITY コマンド (85 ページ) で、コミュニティ「viewers」を有効にします。

```
ENABLE SNMP COMMUNITY=viewers ↵
```

基本設定は以上です。

これにより、SNMP マネージャー (192.168.11.5) から本製品の MIB 情報を取得できるようになります。

その他

管理ステーションを追加するには、ADD SNMP COMMUNITY コマンド (51 ページ) を使います。次の例では、コミュニティ「viewers」に管理ホスト「192.168.10.10」を追加しています。

```
ADD SNMP COMMUNITY=viewers MANAGER=192.168.10.10 ↵
```

書き込み権限を持つコミュニティを作成するには、CREATE SNMP COMMUNITY コマンド (57 ページ) の ACCESS パラメーターに「WRITE」を指定します (ACCESS パラメーター省略時の権限は読み込みのみ (READ) です)。

```
CREATE SNMP COMMUNITY=admins ACCESS=WRITE MANAGER=192.168.10.5 ↵
```

本製品の SNMP エージェントは、デフォルトでは管理ステーションとして登録されたコンピューター以外からの SNMP 要求には応答しません。この制限をなくすには、コミュニティの OPEN (open access) パラメーターを YES (または ON、TRUE) にします。次に具体例を挙げます。

- コミュニティ作成時に OPEN=YES を指定 (省略時は OPEN=NO となります)

```
CREATE SNMP COMMUNITY=viewers ACCESS=READ OPEN=YES ↵
```

- コミュニティ作成後は SET SNMP COMMUNITY コマンド (118 ページ) を使います。

```
SET SNMP COMMUNITY=viewers OPEN=YES ↵
```

SNMP の設定を確認するには、SHOW SNMP コマンド (159 ページ)、SHOW SNMP COMMUNITY コマンド (162 ページ) を使います。

```
SHOW SNMP ↵
```

```
SHOW SNMP COMMUNITY=viewers ↵
```

指定したインターフェースの情報を確認するには、SHOW INTERFACE コマンド (141 ページ) を使います。

```
SHOW INTERFACE ↵
```

本製品のシステム名 (sysName) を設定するには、SET SYSTEM コマンド (121 ページ) の NAME パラメーターで指定します。

```
SET SYSTEM NAME=GS908SS ↵
```

本製品の設置場所 (sysLocation) を設定するには、SET SYSTEM コマンド (121 ページ) の LOCATION パラメーターで指定します。

```
SET SYSTEM LOCATION="8F, TTC Bldg" ↵
```

本製品の管理責任者 (sysContact) を設定するには、SET SYSTEM コマンド (121 ページ) の CONTACT

パラメーターで指定します。

```
SET SYSTEM CONTACT="Taro (Ex 2602)" ↵
```

SNTP

SNTP (Simple Network Time Protocol) を利用すると、ネットワーク上の SNTP サーバーから時刻情報を取得し、システムの時計を常に正確にあわせておくことができます。

本製品はリアルタイムクロックを内蔵していないため、システムを再起動するたびに時刻をあわせる必要があります。これは、SET TIME コマンド (125 ページ) を使って手動で行うこともできますが、SNTP サーバーにアクセスできる環境では、SNTP の利用をおすすめします。

基本設定

SNTP を使用するために最低限必要な設定を示します。ここでは次のような構成のネットワークを想定しています。IP の設定は終わっているものとします。

SNTP サーバーの IP アドレス	192.168.10.5
タイムゾーン (UTC からのオフセット)	JST (+9:00:00)

表 11:

1. SNTP モジュールを有効にします。

```
ENABLE NTP ↵
```

2. SNTP サーバーの IP アドレスを指定します。サーバーは 1 つしか設定できません。

```
ADD NTP PEER=192.168.10.5 ↵
```

3. タイムゾーン (UTC からのオフセット) を設定します。SNTP から得られる時刻情報は UTC (協定世界時) なので、必ずオフセットを指定してください。日本標準時 (JST) は UTC より 9 時間進んでいるので、次のように指定します。

```
SET NTP UTCOFFSET=+9:00:00 ↵
```

また、定義済みのタイムゾーン名を使って次のように指定することもできます。

```
SET NTP UTCOFFSET=JST ↵
```

4. 念のため SNTP モジュールをいったんリセットします。

```
RESET NTP ↵
```

基本設定は以上です。

これにより、定期的に SNTP サーバーに問い合わせを行い、システムの時計が自動的に調整されるようになります。SNTP サーバーに問い合わせを行う間隔は 24 時間です。

現在時刻は SHOW TIME コマンド (168 ページ) で確認します。

```
Manager > show time

System time is 2008-03-03 Monday at 07:20:04
```

SNTP に関する情報は SHOW NTP コマンド（153 ページ）で確認します。

```
Manager > show ntp
```

NTP Module Configuration

```
Status                : Enabled
Host Address          : 192.168.1.5
UTC Offset            : +09:00:00 (JST)
Last Updated         : 2008-03-03 at 11:23:16
Last Delta            : 0
```

```
Configured Peer       : 192.168.1.1
NTP Server Listen Port : 123
```

Counters

```
Packets Sent          : 0000000001
Packets Received      : 0000000001
Packets w/head error  : 0000000000
Packets w/data error  : 0000000000
```

付録

定義済みのタイムゾーン名一覧

ASIA	+8:00	Asia
ACDT	+10:30	Australian Central Daylight Time
ACST	+9:30	Australian Central Standard Time
AEDT	+11:00	Australian Eastern Daylight Time
AEST	+10:00	Australian Eastern Standard Time
AWST	+8:00	Australian Western Standard Time
BST	+1:00	British Standard Time
CHINA	+8:00	China
GMT	+0:00	Greenwich Mean Time
UK	+0:00	Greenwich Mean Time
HK	+8:00	Hong Kong
JST	+9:00	Japan Standard Time
MET	+1:00	Mid-European time
NZDT	+13:00	New Zealand Daylight Time
NZST	+12:00	New Zealand Standard Time
SING	+8:00	Singapore

TAIWAN	+8:00	Taiwan
UTC	+0:00	Universal Coordinated Time
CDT	-5:00	US Central Daylight Time
CST	-6:00	US Central Standard Time
EDT	-4:00	US Eastern Daylight Time
EST	-5:00	US Eastern Standard Time
MDT	-6:00	US Mountain Daylight Time
MST	-7:00	US Mountain Standard Time
PDT	-7:00	US Pacific Daylight Time
PST	-8:00	US Pacific Standard Time
DEFAULT	-	-
NONE	-	-

表 12: タイムゾーン名一覧

ターミナルサービス

コンソール、Telnet 関連機能について説明します。

コンソールターミナルの設定

本製品の設定に使用するコンソールターミナル（通信ソフトウェア）は、次のように設定します。

項目	値
通信速度	9,600bps
データビット	8
パリティ	なし
ストップビット	1
フロー制御	なし
エミュレーション	VT100
BackSpace キーの使い方	Ctrl+H
エンコード方法	シフト JIS（SJIS）

表 13:

- Windows NT4.0 でハイパーターミナルをご使用の場合は、本製品のオンラインヘルプで日本語を正常に表示させるために、エミュレーションを「ANSI」に設定してください。

タイムアウト

工場出荷時の設定ではタイムアウトは 300 秒のため、キー入力がない状態が 5 分継続すると自動的にログアウトします（Telnet セッションも同様に切断されます）。SET CONSOLE コマンド（104 ページ）でタイムアウトまでの時間を変更できます。

15 分キー入力がない状態が続くと自動的にログアウトするように設定します。

```
SET CONSOLE TIMEOUT=900 ↵
```

タイムアウトを無効に設定します（キー入力がない状態が続いても自動的にログアウトされなくなります）。

```
SET CONSOLE TIMEOUT=0 ↵
```

Telnet

本製品は Telnet サーバー機能を有しています。同時に接続できるセッション数は 1～4 で、デフォルトでは、最大 4 セッションまで接続できるように設定されています。リスニングポートはデフォルトで 23 に設定されています。

本製品を Telnet で使用するためには、あらかじめ本製品に IP アドレスを設定しておく必要があります。設

定方法については「IP」をご覧ください。

Telnet クライアントのパラメーターは、次のように設定します。

項目	値
エミュレーション	VT100
BackSpace キーの使い方	Ctrl+H
エンコード方法	シフト JIS (SJIS)

表 14:

Telnet サーバーに関する設定を変更するには、SET TELNET コマンド (123 ページ) を実行します。

Telnet サーバーの最大同時接続数を 2 に、リスニングポートを 120 に変更します。

```
SET TELNET LIMIT=2 LISTENPORT=120 ↵
```

- ㄨ Telnet 接続の場合、ログインプロンプトが表示されてから 1 分以内にログインしないと、Telnet セッションが切断されます。
- ㄨ Telnet 接続の場合、3 回ログイン認証に失敗すると強制切断します。この設定は変更できません。

アクセスフィルター

アクセスフィルターとは本製品宛への通信に適用するセキュリティ機能です。本製品宛のパケットを受信すると、受信パケットに関連付けられたフィルターを参照し、受信を許可するか、拒否するか決定を行います。

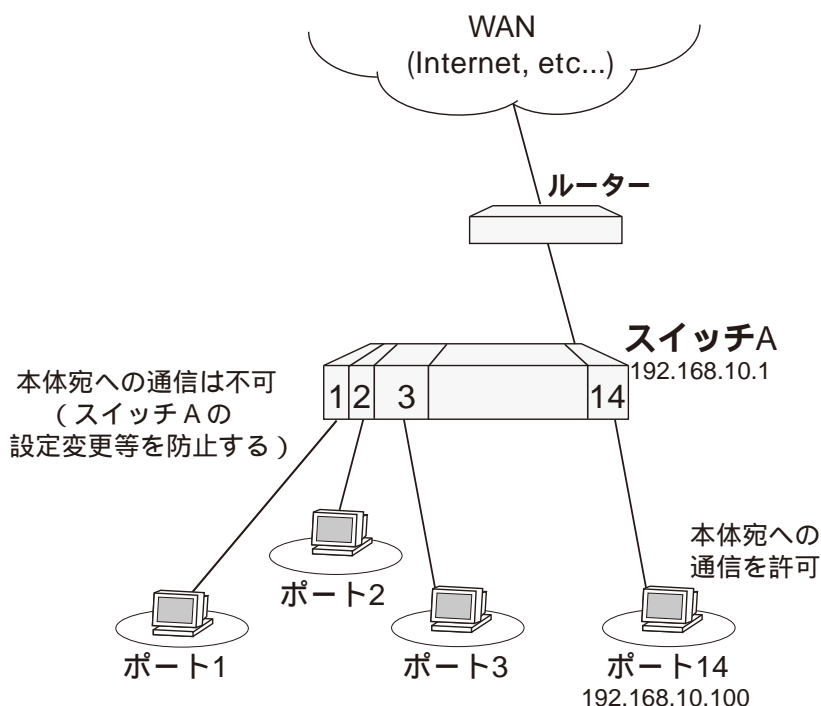
本製品では、各種サービス（ICMP、TELNET、FTP、HTTP、SNMP）に IP アドレスおよび受信ポートを組み合わせて関連付けたフィルタリングに対応しています。各組み合わせパターンをエントリーと呼び、システム全体で 512 件まで登録できます。

以下では、コマンドラインインターフェースによる設定方法を説明します。なお、Web GUI では「システム設定」-「アクセスフィルター」で設定できます。（詳細は「Web GUI」/「システム設定」をご覧ください。）

アクセスフィルターの基本設定

アクセスフィルターのコマンド例をいくつか示します。本製品への IP アドレスの付与については、「IP」/「概要・基本設定」をご覧ください。

管理用端末（192.168.10.100）からのアクセスを除き、本製品（192.168.10.1）宛へのすべてのアクセスを拒否するよう設定します。



1. ENABLE ACCESS FILTER コマンド（77 ページ）でアクセスフィルター機能を有効にします。ここでは、あらゆるプロトコル・サービスを含むグローバルフィルターを設定します。

```
ENABLE ACCESS FILTER=GLOBAL ↵
```

2. 次に、SET ACCESS FILTER コマンド（96 ページ）で、デフォルトのアクション（処理）ではパケッ

トを破棄するよう設定します。

```
SET ACCESS FILTER=GLOBAL DEFAULT=DISCARD ↵
```

3. エントリーを作成します。ADD ACCESS FILTER コマンド (47 ページ) で、管理用端末 (ポート : 8、IP アドレス : 192.168.10.100) からのすべてのパケットを許可するエントリーを作成します。
ここで、MASK に指定するのはこの IP アドレスのサブネットマスクではなく、受信パケットの送信元 IP アドレスをマスクするのに指定するものです (マスクされた送信元 IP アドレスと指定した IPADDRESS がマッチするとフィルタリングを行います)。

```
ADD ACCESS FILTER=GLOBAL IPADDRESS=192.168.10.100  
MASK=255.255.255.255 ACTION=PASS PORT=8 ↵
```

以上で設定は終わりです。

✧ アクセスフィルター機能はデフォルトで無効になっています。

エントリーを削除するには、DELETE ACCESS FILTER ENTRY コマンド (59 ページ) を使います。

```
DELETE ACCESS FILTER=TELNET ENTRY=1 ↵
```

✧ エントリー番号は、SHOW ACCESS FILTER コマンド (127 ページ) で確認してから指定してください。

エントリーの設定を変更するには、SET ACCESS FILTER ENTRY コマンド (97 ページ) を使います。

```
SET ACCESS FILTER=TELNET ENTRY=1 IPADDRESS=192.168.1.2  
MASK=255.255.255.255 ACTION=PASS PORT=1-7 ↵
```

✧ エントリー番号は、SHOW ACCESS FILTER コマンド (127 ページ) で確認してから指定してください。

アクセスフィルター機能を無効にするには、DISABLE ACCESS FILTER コマンド (67 ページ) を使います。

```
DISABLE ACCESS FILTER=ALL ↵
```

コマンド例

上記基本設定の手順 2 と 3 にあたるコマンドについて、いくつか例を示します。

デフォルトアクションの設定例

デフォルトのアクションでは、すべてのサービス (SNMP、FTP、TELNET、HTTP、ICMP のすべて) のパケットを破棄します。

```
SET ACCESS FILTER=ALL DEFAULT=DISCARD ↵
```

- ＼ FILTER オプションの GLOBAL はすべてのサービスを意味します。ALL を指定した場合、SNMP、FTP、TELNET、HTTP、ICMP、GLOBAL を指定したことになります。

デフォルトのアクションでは、ICMP (PING など) のみ許可します。

```
SET ACCESS FILTER=ICMP DEFAULT=PASS ↓
```

エントリーの作成例

管理用端末 (ポート : 1、IP アドレス : 192.168.10.100) からの ICMP (PING パケットなど) を許可します。

```
ADD ACCESS FILTER=ICMP IPADDRESS=192.168.10.100 MASK=255.255.255.255
ACTION=PASS PORT=1 ↓
```

ポート 4 配下の、IP アドレス : 192.168.30.n からの ICMP (PING パケットなど) を拒否します。

```
ADD ACCESS FILTER=ICMP IPADDRESS=192.168.30.0 MASK=255.255.255.0
ACTION=DISCARD PORT=4 ↓
```

ポート 5 配下の、IP アドレス : 192.168.50.n からのすべてのパケットを許可します。

```
ADD ACCESS FILTER=GLOBAL IPADDRESS=192.168.50.0 MASK=255.255.255.0
ACTION=PASS PORT=5 ↓
```

ポート 6 配下の、IP アドレス : 192.168.70.n からの FTP と Telnet のパケットを許可します。

```
ADD ACCESS FILTER=FTP IPADDRESS=192.168.70.0 MASK=255.255.255.0
ACTION=PASS PORT=6 ↓
```

```
ADD ACCESS FILTER=TELNET IPADDRESS=192.168.70.0 MASK=255.255.255.0
ACTION=PASS PORT=6 ↓
```

- ＼ エントリーとして設定するサービスは、ENABLE ACCESS FILTER コマンド (77 ページ) で有効にする必要があります。デフォルトでは無効になっています。

設定内容の確認

各サービスの有効/無効を確認します。

```
SHOW ACCESS FILTER ↓
```

Telnet サービスのエントリー内容を確認します。

```
SHOW ACCESS FILTER=TELNET ↓
```

マッチ判定

受信パケットが複数のエントリーに一致した場合は、より限定された条件のエントリーの処理が適用されます（最長マッチ）。

Telnet サービスに対し、次のコマンドを実行したとします。

```
ENABLE ACCESS FILTER=TELNET ↓
```

```
SET ACCESS FILTER=TELNET DEFAULT=DISCARD ↓
```

```
ADD ACCESS FILTER=TELNET IPADDRESS=192.168.0.0 MASK=255.255.0.0  
ACTION=PASS PORT=1 ↓
```

```
ADD ACCESS FILTER=TELNET IPADDRESS=192.168.1.0 MASK=255.255.255.0  
ACTION=DISCARD PORT=1 ↓
```

エントリー番号	ポート	マスク	IP アドレス	処理
（なし。Telnet サービスに対するデフォルト）	なし	0.0.0.0	0.0.0.0	DISCARD
1	1	255.255.0.0	192.168.0.0	PASS
2	1	255.255.255.0	192.168.1.0	DISCARD

表 15:

受信パケットの送信元 IP アドレスが 192.168.1.1 であるとします。

このとき

<エントリー 1> 192.168.1.1 AND 255.255.0.0 -> 192.168.0.0（一致）

<エントリー 2> 192.168.1.1 AND 255.255.255.0 -> 192.168.1.0（一致）

となり、エントリー 1 とエントリー 2 の 2 つが一致します。

各エントリーのマスク長（マスクビット数）はエントリー 2（24 ビット）> エントリー 1（16 ビット）ですので、エントリー 2 の処理が適用されます。

したがって上記の Telnet フィルターグループは

「192.168.x.x は（192.168.1.x を除いて）許可」

「その他はすべて破棄」

という動作になります。

マスク長：32 - 値が 1 である最下位ビット番号

フィルター適用のまとめ

フィルタリング対象パケットは

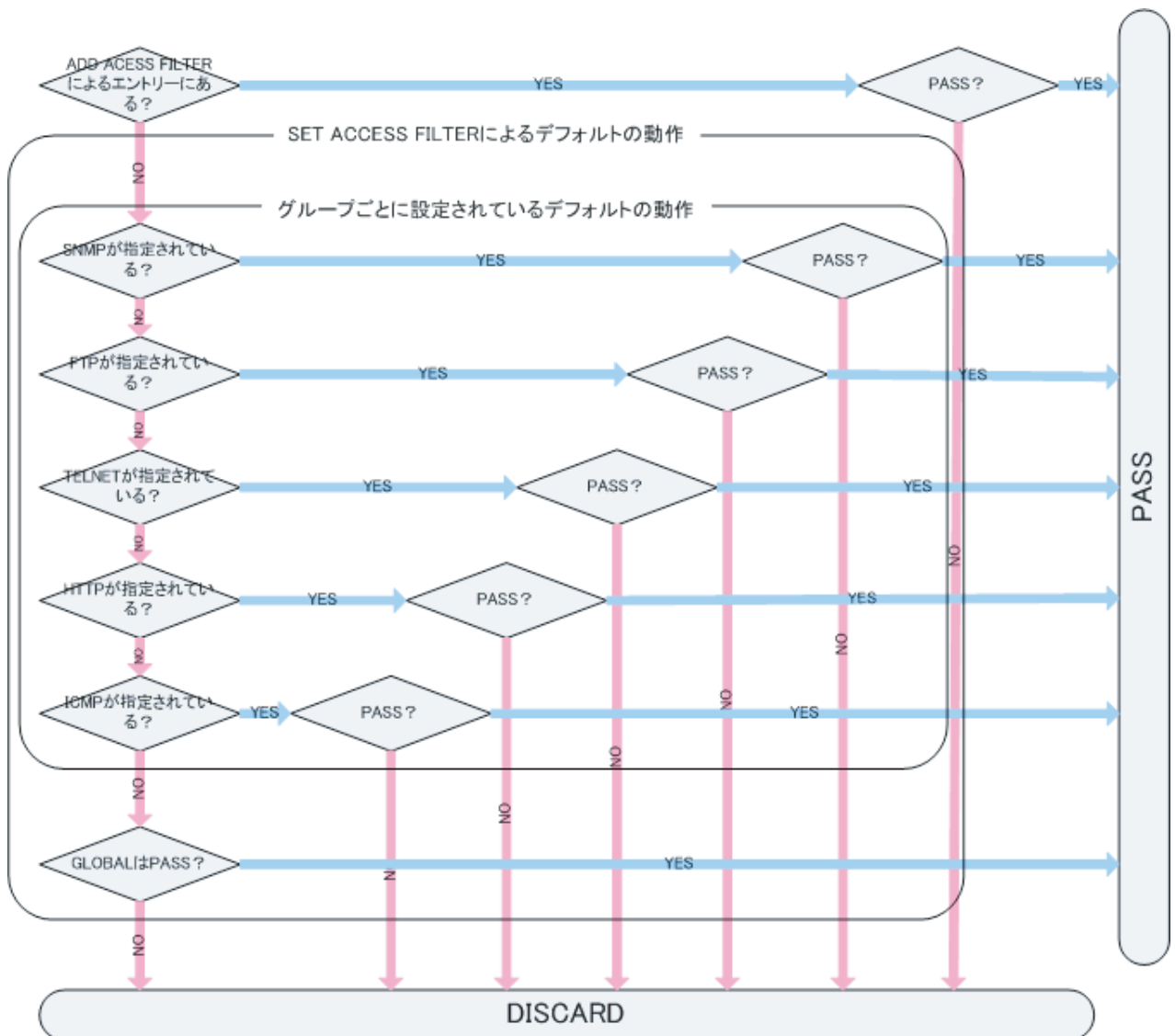
1. 各サービス（Telnet、SNMP など）に関連付けられたフィルター
 - 1.1. 各ポートによるフィルター

1.2. PORT=ALL のフィルター

1.3. フィルターグループのデフォルト

2. グローバルフィルター

の順でフィルタリングされます。



HTTP サーバー

本製品は、Web ブラウザーを利用したグラフィカル・ユーザー・インターフェース（GUI）をサポートしています。デフォルトでは無効です。

＼ GUI を使用する場合は、HTTP サーバーを有効にしておいてください。

＼ HTTP サーバー機能は GUI サポート専用です。その他の用途はサポート対象外になりますのでご了承ください。

HTTP サーバーを有効にします。

ENABLE HTTP SERVER ↵

HTTP サーバーを無効にします。GUI にアクセスできなくなりますのでご注意ください。

DISABLE HTTP SERVER ↵

HTTP サーバーの状態は SHOW HTTP SERVER コマンド（140 ページ）で確認できます。

SHOW HTTP SERVER ↵

認証サーバー

本製品は、ユーザー認証機構として、内部のユーザー認証データベースに加えて、RADIUS (Remote Authentication Dial In User Service) サーバーをサポートしています。

ユーザー認証処理の順序

ログイン名とパスワードを受け取った本製品は、最初にユーザー名とパスワードの検証を行い、ユーザー名とパスワードが合った場合は、その時点で認証成功となります。ここで認証が成功しなかった場合は、RADIUS サーバーに認証を要求します。RADIUS サーバーが登録されていない、あるいは RADIUS サーバーから Access-Reject が返ってきた場合は、認証は失敗、RADIUS サーバーから、Access-Accept が返ってきた場合は認証成功となります。

RADIUS サーバー

RADIUS サーバーは、ユーザー認証に使用できるほか、ポート認証でも使用できます。詳細は「ポート認証」をご覧ください。

RADIUS サーバーを登録するには、ADD RADIUSSERVER SERVER コマンド (50 ページ) を使用し、RADIUS サーバーの IP アドレス、共有パスワードを指定してください。

```
ADD RADIUSSERVER SERVER=192.168.10.10 ORDER=1 SECRET=Valid8Me ↵
```

認証パケットのやり取りに使用する UDP ポート番号およびアカウンティングパケットに使用する UDP ポート番号を変更するには、PORT パラメーター (認証) と ACCPORT パラメーター (アカウンティング) を指定してください。(RFC2865 では認証用ポートを 1812 番、RFC2866 ではアカウンティング用ポートを 1813 番としています。デフォルトでは、この設定になっています) RADIUS サーバーの設定を確認し、適切なポート番号を指定してください。

```
ADD RADIUSSERVERS SERVER=192.168.10.20 ORDER=2 PORT=1645 ACCPORT=1646 ↵
```

RADIUS サーバーとの通信に関するパラメーター (応答待ち時間、再送回数など) は SET RADIUS コマンド (114 ページ) で変更できます。次の例では、応答待ち時間を 10 秒、再送回数を 5 回に設定しています。デフォルトはそれぞれ 6 秒と 3 回です。

```
SET RADIUS TIMEOUT=10 RETRANSMITCOUNT=5 ↵
```

RADIUS サーバーの登録を削除するには、DELETE RADIUSSERVER SERVER コマンド (63 ページ) を使用します。

```
DELETE RADIUSSERVER SERVER=192.168.10.20 ↵
```

登録されている RADIUS サーバーの一覧を表示するには、SHOW AUTHENTICATION コマンド (130 ページ) を使用します。

```
SHOW AUTHENTICATION ↵
```


- ❖ RADIUS サーバーが複数登録されている場合は、登録された順序でサーバーに要求を送信します（最初のサーバーが無応答なら、次のサーバーに要求を送信）。なお、次のサーバーに移るのは、前のサーバーが無応答だったときだけである点に注意してください。いずれかのサーバーから Access-Reject が返ってきた場合は、その時点で RADIUS 認証失敗となり、次のサーバーには要求を送信しません。

RADIUS サーバーで管理するユーザーの権限（ユーザーレベル）は、各ユーザーの Service-Type 属性で指定できます。

Service-Type 属性値	ユーザーレベル
Administrative(6)	Manager レベル
NAS Prompt(7)	Manager レベル

表 16:

RADIUS サーバーのクライアント情報ファイルとユーザー情報ファイルの例を示します。詳細は RADIUS サーバーのマニュアルをご覧ください。

[/etc/raddb/clients]

```
# client          secret
192.168.10.10     Valid8Me
```

[/etc/raddb/users]

```
alpha Password = "PasswordA"
      Framed-IP-Address = 192.168.10.240
      Framed-IP-Netmask = 255.255.255.255
      Idle-Timeout = 120

beta Password = "PasswordB"
      Framed-IP-Address = 192.168.10.241
      Framed-IP-Netmask = 255.255.255.255
      Idle-Timeout = 120
```

RADIUS サーバーのアカウンティング機能

本製品では、RADIUS 認証したクライアントの接続、切断などの情報を通知するための、RADIUS アカウンティングプロトコルをサポートしているため、RADIUS サーバーのアカウンティング機能を使用することができます。

アカウンティングサーバーは、RADIUS サーバーとして設定したサーバーになります。複数の RADIUS サーバーが設定されている場合には、認証に使用されたサーバーを使用します。本機能は、RADIUS サーバーの設定を行わないと使用できません。

RADIUS アカウンティング機能を有効にするには、ENABLE RADIUSACCOUNTING コマンド（83 ページ）を使用します。

```
ENABLE RADIUSACCOUNTING ↵
```

RADIUS アカウンティング機能を無効にするには、DISABLE RADIUSACCOUNTING コマンド（73

ページ) を使用します。

```
DISABLE RADIUSACCOUNTING ↓
```

RADIUS サーバーのアカウントिंग機能に関する設定を変更する場合には、SET RADIUSACCOUNTING コマンド (116 ページ) を使用します。RADIUS サーバーのアカウントング用 UDP ポート番号を変更するには、下記のコマンドを実行します。

```
SET RADIUSACCOUNTING SERVERPORT=1814 ↓
```

RADIUS サーバーのアカウントング機能に関する設定を確認には、SHOW RADIUSACCOUNTING コマンド (157 ページ) を使用します。

```
SHOW RADIUSACCOUNTING ↓
```

コマンドリファレンス編

機能別コマンド索引

システム

CLS	54
HELP	88
LOGOFF	90
RESTART	95
SET PASSWORD	113
SET SYSTEM	121
SET TIME	125
SHOW DEBUG	136
SHOW SYSTEM	164
SHOW TIME	168

ファイルシステム

CLEAR FLASH TOTALLY	53
COPY	55
DELETE FILE	61
SHOW FILE	137

コンフィグレーション

CREATE CONFIG	56
SET CONFIG	102
SHOW CONFIG	132

アップロード・ダウンロード

DISABLE FTP SERVER	68
ENABLE FTP SERVER	78
SET FTP LISTENPORT	105
SHOW FTP	139

ログ

DISABLE LOG	70
DISABLE LOG OUTPUT	71
ENABLE LOG	80
ENABLE LOG OUTPUT	81
FLUSH LOG OUTPUT	87
PURGE LOG	91
SET LOG OUTPUT	107
SHOW LOG	144
SHOW LOG COUNTER	147

SHOW LOG OUTPUT	149
SHOW LOG STATUS	151
SNMP	
ADD SNMP COMMUNITY	51
CREATE SNMP COMMUNITY	57
DELETE SNMP COMMUNITY	64
DESTROY SNMP COMMUNITY	66
DISABLE SNMP	74
DISABLE SNMP COMMUNITY	75
ENABLE SNMP	84
ENABLE SNMP COMMUNITY	85
SET SNMP COMMUNITY	118
SET SNMP LISTENPORT	120
SHOW INTERFACE	141
SHOW SNMP	159
SHOW SNMP COMMUNITY	162
SNTP	
ADD NTP PEER	49
DELETE NTP PEER	62
DISABLE NTP	72
ENABLE NTP	82
PURGE NTP	93
RESET NTP	94
SET NTP	110
SHOW NTP	153
ターミナルサービス	
DISABLE TELNET SERVER	76
ENABLE TELNET SERVER	86
SET ASYN	99
SET CONSOLE	104
SET TELNET	123
SHOW ASYN	129
SHOW CONSOLE	134
SHOW TELNET	167
アクセスフィルター	
ADD ACCESS FILTER	47
DELETE ACCESS FILTER ENTRY	59
DISABLE ACCESS FILTER	67
ENABLE ACCESS FILTER	77
SET ACCESS FILTER	96

SET ACCESS FILTER ENTRY	97
SHOW ACCESS FILTER	127
HTTP サーバー	
DISABLE HTTP SERVER	69
ENABLE HTTP SERVER	79
SET HTTP LISTENPORT	106
SHOW HTTP SERVER	140
認証サーバー	
ADD RADIUSSERVER SERVER	50
DELETE RADIUSSERVER SERVER	63
DISABLE RADIUSACCOUNTING	73
ENABLE RADIUSACCOUNTING	83
SET AUTHENTICATION	100
SET RADIUS	114
SET RADIUSACCOUNTING	116
SHOW AUTHENTICATION	130
SHOW RADIUS	155
SHOW RADIUSACCOUNTING	157

ACTIVATE SCRIPT

カテゴリー：運用・管理

ACTIVATE SCRIPT=filename

filename: ファイル名。拡張子は「.cfg」または「.scp」

解説

指定したスクリプトを実行する。スクリプト属性のないファイル（拡張子は「.cfg」または「.scp」以外）は実行不可。実行中のコマンドは、=> に続いて表示される

パラメーター

SCRIPT スクリプトファイル名

入力・出力・画面例

```
Manager > activate script=system.cfg

=> add ip interface=default ipaddress=192.168.1.5 mask=255.255.255.0

Operation successful.

=> enable ntp

Operation successful.

=> add ntp peer=192.168.1.1

Operation successful.
```

例

system.cfg ファイルを実行する

ACTIVATE SCRIPT=system.cfg

ADD ACCESS FILTER

カテゴリー：運用・管理

```
ADD ACCESS FILTER={SNMP|FTP|TELNET|HTTP|ICMP|GLOBAL} IPADDRESS=ipadd
      MASK=ipadd ACTION={PASS|DISCARD} PORT={port-list|ALL}
```

ipadd: IP アドレス。xxx.xxx.xxx.xxx の形式

port-list: スイッチポート番号（1～）。ハイフン [-]、カンマ [,] を使った複数指定も可能）

解説

アクセスフィルタグループヘントリを追加する。システム全体で 512 個まで追加可能

パラメーター

FILTER サービスに対応するグループ名。GLOBAL を指定するとすべてのサービス（SNMP、FTP、TELNET、HTTP、ICMP 以外のサービスも含む）を指定したこととなる

IPADDRESS フィルタリング対象の IP アドレス

MASK サブネットマスク。省略時は IP アドレスのクラス標準マスクが用いられる

ACTION パケットがフィルタの条件に一致したときのアクション。PASS は許可、DISCARD は破棄

PORT 対象となるスイッチポート番号または ALL。ALL を指定した場合はすべてのスイッチポートが対象となる

入力・出力・画面例

```
Manager > add access filter=telnet ipaddress=192.168.1.2 mask=255.255.255.255 ac-
tion=discard port=all

Operation successful.
```

例

Telnet グループに、IP アドレス（192.168.1.2）からのアクセスを拒否するエントリを追加する（全ポート対象）

```
ADD ACCESS FILTER=TELNET IPADDRESS=192.168.1.2 MASK=255.255.255.255
      ACTION=DISCARD PORT=ALL
```

関連コマンド

DELETE ACCESS FILTER ENTRY (59 ページ)

ENABLE ACCESS FILTER (77 ページ)

SET ACCESS FILTER (96 ページ)

SET ACCESS FILTER ENTRY (97 ページ)

SHOW ACCESS FILTER (127 ページ)

ADD NTP PEER

カテゴリー：運用・管理

ADD NTP PEER=ipadd

ipadd: IP アドレス。xxx.xxx.xxx.xxx の形式

解説

時刻同期をとる SNTP サーバーの IP アドレスを設定する。SNTP サーバーは 1 つしか設定できない。

パラメーター

PEER SNTP サーバーの IP アドレス

入力・出力・画面例

```
Manager > add ntp peer=192.168.1.1  
  
Operation successful.
```

例

SNTP サーバーの IP アドレスを追加する

ADD NTP PEER=192.168.1.1

関連コマンド

DELETE NTP PEER (62 ページ)

DISABLE NTP (72 ページ)

ENABLE NTP (82 ページ)

PURGE NTP (93 ページ)

RESET NTP (94 ページ)

SET NTP (110 ページ)

SHOW NTP (153 ページ)

ADD RADIUSSERVER SERVER

カテゴリー：運用・管理

```
ADD RADIUSSERVER SERVER=ipadd ORDER=1,2 [SECRET=secret] [PORT=port]
[ACCPORT=port]
```

ipadd: IP アドレス。xxx.xxx.xxx.xxx の形式

secret: パスワード（1～24 文字。英数字および記号）

port: UDP ポート番号（1～65535）

解説

認証サーバーリストに RADIUS（Remote Authentication Dial In User Server）サーバーを追加する

パラメーター

SERVER RADIUS サーバーの IP アドレス

ORDER RADIUS サーバーの優先順位。1 または 2

SECRET RADIUS サーバーとの通信に使う共有パスワード

PORT RADIUS サーバーの認証用 UDP ポート番号。デフォルトは 1812 番

ACCPORT RADIUS サーバーのアカウント用 UDP ポート番号。デフォルトは 1813 番。SET RADIUSACCOUNTING コマンドの SERVERPORT パラメーターで設定したポート番号と同じ番号を指定する

入力・出力・画面例

```
Manager > add radiusserver server=192.168.1.208 order=1 secret=secret

Operation successful.
```

例

RADIUS サーバー（192.168.1.208）を共通パスワード（secret）で追加する

```
ADD RADIUSSERVER SERVER=192.168.1.208 ORDER=1 SECRET=SECRET
```

関連コマンド

DELETE RADIUSSERVER SERVER（63 ページ）

SHOW AUTHENTICATION（130 ページ）

ADD SNMP COMMUNITY

カテゴリー：運用・管理

ADD SNMP COMMUNITY=*community* [MANAGER=*ipadd*]

community: SNMP コミュニティー名

ipadd: IP アドレス。xxx.xxx.xxx.xxx の形式

解説

SNMP コミュニティーに管理ステーションを指定する

パラメーター

COMMUNITY SNMP コミュニティー名

MANAGER SNMP オペレーションを許可する管理ステーション。最大 4 個まで

入力・出力・画面例

```
Manager > add snmp community=public manager=192.168.1.1

Operation successful.
```

例

SNMP コミュニティー「public」に管理ステーション（192.168.1.1）を追加する

ADD SNMP COMMUNITY=public MANAGER=192.168.1.1

備考・注意事項

本システムは、MANAGER に登録されていない管理ステーションからの SNMP リクエストには応答しない。ただし、SNMP コミュニティーの OPEN プロパティーが YES の場合は、MANAGER パラメーターの設定にかかわらず、すべての SNMP リクエストに応答する。

関連コマンド

CREATE SNMP COMMUNITY (57 ページ)

DELETE SNMP COMMUNITY (64 ページ)

DESTROY SNMP COMMUNITY (66 ページ)

DISABLE SNMP COMMUNITY (75 ページ)

DISABLE SNMP COMMUNITY TRAP

ENABLE SNMP COMMUNITY (85 ページ)

ENABLE SNMP COMMUNITY TRAP

SET SNMP COMMUNITY (118 ページ)

SHOW SNMP COMMUNITY (162 ページ)

CLEAR FLASH TOTALLY

カテゴリー：運用・管理

CLEAR FLASH TOTALLY

解説

フラッシュメモリーを初期化する。ファームウェア以外のファイルをすべて削除する

例

フラッシュメモリーを初期化する

CLEAR FLASH TOTALLY

備考・注意事項

起動時設定ファイルは、設定なしになる

関連コマンド

CREATE CONFIG (56 ページ)

SHOW CONFIG (132 ページ)

CLS

カテゴリー：運用・管理

CLS

解説

現在表示中の画面を消去する。消去後はプロンプトとカーソルが1行目に表示される

入力・出力・画面例

```
Manager > cls
```

例

画面をクリアする

CLS

COPY

カテゴリー：運用・管理

COPY *sourcefilename* *destinationfilename*

sourcefilename: コピー元のファイル名 (ピリオドと拡張子を含み 20 文字まで。半角英数字、およびハイフン [-]、アンダーバー [_]、ピリオド [.]、開始丸かっこ [(]、終了丸かっこ [)] が利用可。大文字・小文字を区別する

destinationfilename: コピーしたあとのファイルに付けるファイル名 (ピリオドと拡張子を含み 20 文字まで。半角英数字、ハイフン [-]、アンダーバー [_]、ピリオド [.]、開始丸かっこ [(]、終了丸かっこ [)] が利用可。大文字・小文字を区別する

解説

ファイルをコピーする。同名のファイルがすでに存在していた場合は、確認メッセージが表示される。

入力・出力・画面例

```
Manager > copy system.cfg system_bak.cfg  
  
Operation successful.
```

例

system.cfg ファイルを複製する

```
COPY system.cfg system_bak.cfg
```

関連コマンド

DELETE FILE (61 ページ)

SHOW FILE (137 ページ)

CREATE CONFIG

カテゴリー：運用・管理

CREATE CONFIG=filename

filename: ファイル名（ピリオドと拡張子を含み）20 文字まで。半角英数字、およびハイフン [-]、アンダーバー [_]、ピリオド [.]、開始丸かっこ [(]、終了丸かっこ [)] が利用可。拡張子は「.cfg」または「.scp」。大文字・小文字を区別する

解説

現在の設定内容（メモリー上の設定内容）をスクリプトファイルに保存する

パラメーター

CONFIG 設定ファイル名。指定したファイルがすでに存在していた場合は上書きされる。存在しない場合は新規作成される

入力・出力・画面例

```
Manager > create config=sample.cfg  
  
Operation successful.
```

例

現在の設定内容をスクリプトファイルに保存する

```
CREATE CONFIG=sample.cfg
```

備考・注意事項

SET PASSWORD コマンドで変更されたパスワードは設定を保存しなくても再起動後も有効

関連コマンド

SET CONFIG (102 ページ)

SHOW CONFIG (132 ページ)

CREATE SNMP COMMUNITY

カテゴリー：運用・管理

```
CREATE SNMP COMMUNITY=community [ACCESS={READ|WRITE}] [MANAGER=ipadd]
[OPEN={ON|OFF|YES|NO|TRUE|FALSE}]
```

community: SNMP コミュニティー名 (1~20 文字。半角英数字、およびハイフン [-]、アンダーバー [_]、ピリオド [.]、開始丸かっこ [(]、終了丸かっこ [)] が使用可。大文字・小文字の属性は無視されるが、表示には大文字・小文字の区別が反映される。)

ipadd: IP アドレス。xxx.xxx.xxx.xxx の形式

解説

SNMP コミュニティーを作成する

パラメーター

COMMUNITY SNMP コミュニティー名。32 個まで作成可能

ACCESS コミュニティーのアクセス権。READ (デフォルト) は読み出し (get、get-next) のみを許可、WRITE は読み書き両方 (get、get-next、set) を許可する

MANAGER SNMP オペレーションを許可する管理ステーション。コミュニティには 4 つの MANAGER を指定できるが、CREATE SNMP COMMUNITY コマンドでは 1 つしか指定できない。トラップホスト同様、複数指定する場合はコミュニティ作成後に ADD SNMP COMMUNITY コマンドで追加する

OPEN SNMP オペレーションをすべてのホストに開放するかどうかを示す。NO (デフォルト) は、MANAGER パラメーターで指定したホストのみに制限する。YES を指定すると、すべての SNMP リクエストを受け入れる。ON、YES、TRUE および OFF、NO、FALSE はそれぞれ同じ意味

入力・出力・画面例

```
Manager > create snmp community=public

Operation successful.

Manager > create snmp community=private access=write manager=192.168.1.1

Operation successful
```

例

SNMP コミュニティー「public」を作成する

```
CREATE SNMP COMMUNITY=public
```

書き込み権限のある SNMP コミュニティー「private」を作成し管理ステーションとして 192.168.1.1 を指定する

```
CREATE SNMP COMMUNITY=private ACCESS=WRITE MANAGER=192.168.1.1
```

備考・注意事項

本システムは、MANAGER に登録されていない管理ステーションからの SNMP リクエストには応答しない。ただし、SNMP コミュニティーの OPEN プロパティーが YES の場合は、MANAGER パラメーターの設定にかかわらず、すべての SNMP リクエストに応答する

関連コマンド

ADD SNMP COMMUNITY (51 ページ)

DELETE SNMP COMMUNITY (64 ページ)

DESTROY SNMP COMMUNITY (66 ページ)

DISABLE SNMP COMMUNITY (75 ページ)

DISABLE SNMP COMMUNITY TRAP

ENABLE SNMP COMMUNITY (85 ページ)

ENABLE SNMP COMMUNITY TRAP

SET SNMP COMMUNITY (118 ページ)

SHOW SNMP COMMUNITY (162 ページ)

DELETE ACCESS FILTER ENTRY

カテゴリー：運用・管理

DELETE ACCESS FILTER={SNMP|FTP|TELNET|HTTP|ICMP|GLOBAL} **ENTRY**=*num*

num: エントリー番号

解説

アクセスフィルターグループからエントリーを削除する

パラメーター

FILTER 各サービスに対応するグループ名。GLOBAL を指定するとすべてのサービス（SNMP、FTP、TELNET、HTTP、ICMP 以外のサービスも含む）を指定したこととなる

ENTRY 対象となるアクセスフィルターのエントリー番号。SHOW ACCESS FILTER コマンドで FILTER を指定して表示されるエントリー番号を指定する

入力・出力・画面例

```
Manager > delete access filter=telnet entry=1

Operation successful.
```

例

Telnet グループのエントリー 1 を削除する

DELETE ACCESS FILTER=TELNET ENTRY=1

備考・注意事項

エントリーを削除した後に、CREATE CONFIG コマンドで設定を保存すると、エントリー番号が詰められる。エントリー番号を指定する場合は、SHOW ACCESS FILTER コマンドで確認してから指定すること

関連コマンド

ADD ACCESS FILTER (47 ページ)

ENABLE ACCESS FILTER (77 ページ)

SET ACCESS FILTER (96 ページ)

SET ACCESS FILTER ENTRY (97 ページ)

SHOW ACCESS FILTER (127 ページ)

DELETE FILE

カテゴリー：運用・管理

DELETE FILE=filename

filename: ファイル名またはファイル名パターン（ワイルドカード）。ワイルドカード（*）は filename の前後のいずれかに、1 つのみ使用できる

解説

ファイルを削除する

パラメーター

FILE 対象となるファイル名

入力・出力・画面例

```
Manager > delete file=test.txt  
  
Operation successful.
```

例

「test.txt」というファイル名のファイルを削除する

DELETE FILE=test.txt

「test」で始まるファイル名のファイルを削除する

DELETE FILE=test*

関連コマンド

COPY (55 ページ)

SHOW FILE (137 ページ)

DELETE NTP PEER

カテゴリー：運用・管理

DELETE NTP PEER [=*ipadd*]

ipadd: IP アドレス。xxx.xxx.xxx.xxx の形式

解説

時刻同期をとる SNTP サーバーの IP アドレスを削除する。

パラメーター

PEER SNTP サーバーの IP アドレス。省略可能

入力・出力・画面例

```
Manager > delete ntp peer=192.168.1.1  
  
Operation successful.
```

例

SNTP サーバーの IP アドレスを削除する

DELETE NTP PEER=192.168.1.1

関連コマンド

ADD NTP PEER (49 ページ)

DISABLE NTP (72 ページ)

ENABLE NTP (82 ページ)

PURGE NTP (93 ページ)

RESET NTP (94 ページ)

SET NTP (110 ページ)

SHOW NTP (153 ページ)

DELETE RADIUSSERVER SERVER

カテゴリー：運用・管理

DELETE RADIUSSERVER SERVER=*ipadd*

ipadd: IP アドレス。xxx.xxx.xxx.xxx の形式

解説

認証サーバーリストから RADIUS (Remote Authentication Dial In User Server) サーバーを削除する

パラメーター

SERVER RADIUS サーバーの IP アドレス

入力・出力・画面例

```
Manager > delete radiusserver server=192.168.1.208  
  
Operation successful.
```

例

RADIUS サーバー (192.168.1.208) をリストから削除する

DELETE RADIUSSERVER SERVER=192.168.1.208

関連コマンド

ADD RADIUSSERVER SERVER (50 ページ)

SHOW AUTHENTICATION (130 ページ)

DELETE SNMP COMMUNITY

カテゴリー：運用・管理

DELETE SNMP COMMUNITY=community [MANAGER=ipadd]

community: SNMP コミュニティー名

ipadd: IP アドレス。xxx.xxx.xxx.xxx の形式

解説

SNMP コミュニティーから管理ステーションを削除する

パラメーター

COMMUNITY SNMP コミュニティー名

MANAGER SNMP オペレーションを許可する管理ステーション

入力・出力・画面例

```
Manager > delete snmp community=public manager=192.168.1.1  
  
Operation successful.
```

例

SNMP コミュニティー「public」から管理ステーション（192.168.1.1）を削除する

DELETE SNMP COMMUNITY=public MANAGER=192.168.1.1

備考・注意事項

本システムは、MANAGER に登録されていないホストからの SNMP リクエストには応答しない。ただし、SNMP コミュニティーの OPEN プロパティーが YES の場合は、MANAGER パラメーターの設定にかかわらず、すべての SNMP リクエストに応答する

関連コマンド

ADD SNMP COMMUNITY (51 ページ)

CREATE SNMP COMMUNITY (57 ページ)

DESTROY SNMP COMMUNITY (66 ページ)

DISABLE SNMP COMMUNITY (75 ページ)

DISABLE SNMP COMMUNITY TRAP

ENABLE SNMP COMMUNITY (85 ページ)

ENABLE SNMP COMMUNITY TRAP

SET SNMP COMMUNITY (118 ページ)

SHOW SNMP COMMUNITY (162 ページ)

DESTROY SNMP COMMUNITY

カテゴリー：運用・管理

DESTROY SNMP COMMUNITY=*community*

community: SNMP コミュニティー名

解説

SNMP コミュニティーを削除する

パラメーター

COMMUNITY SNMP コミュニティー名

入力・出力・画面例

```
Manager > destroy snmp community=public  
  
Operation successful.
```

例

SNMP コミュニティー「public」を削除する

DESTROY SNMP COMMUNITY=public

関連コマンド

ADD SNMP COMMUNITY (51 ページ)
CREATE SNMP COMMUNITY (57 ページ)
DELETE SNMP COMMUNITY (64 ページ)
DISABLE SNMP COMMUNITY (75 ページ)
DISABLE SNMP COMMUNITY TRAP
ENABLE SNMP COMMUNITY (85 ページ)
ENABLE SNMP COMMUNITY TRAP
SET SNMP COMMUNITY (118 ページ)
SHOW SNMP COMMUNITY (162 ページ)

DISABLE ACCESS FILTER

カテゴリー：運用・管理

DISABLE ACCESS FILTER=**{SNMP|FTP|TELNET|HTTP|ICMP|GLOBAL|ALL}**

解説

本システムへのアクセスフィルター機能を無効にする。

パラメーター

FILTER 各サービスに対応するグループ名。GLOBAL を指定するとすべてのサービス (SNMP、FTP、TELNET、HTTP、ICMP 以外のサービスも含む) を指定したこととなる。ALL を指定すると SNMP、FTP、TELNET、HTTP、ICMP、GLOBAL すべてが対象になる

入力・出力・画面例

```
Manager > disable access filter=telnet

Operation successful.
```

例

Telnet サービスのアクセスフィルターを無効にする

DISABLE ACCESS FILTER=TELNET

関連コマンド

ADD ACCESS FILTER (47 ページ)
 DELETE ACCESS FILTER ENTRY (59 ページ)
 ENABLE ACCESS FILTER (77 ページ)
 SET ACCESS FILTER (96 ページ)
 SET ACCESS FILTER ENTRY (97 ページ)
 SHOW ACCESS FILTER (127 ページ)

DISABLE FTP SERVER

カテゴリー：運用・管理

DISABLE FTP SERVER

解説

FTP サーバー機能を無効にする。デフォルトは有効

入力・出力・画面例

```
Manager > disable ftp server  
  
Operation successful.
```

例

FTP サーバー機能を無効にする

DISABLE FTP SERVER

関連コマンド

ENABLE FTP SERVER (78 ページ)

SET FTP LISTENPORT (105 ページ)

SHOW FTP (139 ページ)

DISABLE HTTP SERVER

カテゴリー：運用・管理

DISABLE HTTP SERVER

解説

HTTP サーバーを無効にする。WEB GUI を利用する場合は、HTTP サーバーを有効にする必要がある。デフォルトは無効。

入力・出力・画面例

```
Manager > disable http server  
  
Operation successful.
```

例

HTTP サーバーを無効にする

DISABLE HTTP SERVER

関連コマンド

ENABLE HTTP SERVER (79 ページ)

SHOW HTTP SERVER (140 ページ)

DISABLE LOG

カテゴリー：運用・管理

DISABLE LOG

解説

ログ機能を無効にする。デフォルトは有効

入力・出力・画面例

```
Manager > disable log  
  
Operation successful.
```

例

ログ機能を無効にする

DISABLE LOG

関連コマンド

ENABLE LOG (80 ページ)

SHOW LOG (144 ページ)

SHOW LOG OUTPUT (149 ページ)

SHOW LOG STATUS (151 ページ)

DISABLE LOG OUTPUT

カテゴリー：運用・管理

DISABLE LOG OUTPUT [= {TEMPORARY|SYSLOG}]

解説

指定した出力先へのログ出力を無効にする

デフォルトは TEMPORARY（メモリー）へは有効。syslog サーバーへは無効

パラメーター

OUTPUT ログ出力先（TEMPORARY か SYSLOG）を指定する。TEMPORARY を指定すると、メモリーにログを出力しない。SYSLOG を指定すると syslog サーバーにログ情報を送信しない。指定しない場合、すべてのログ出力が無効になる

入力・出力・画面例

```
Manager > disable log output

Operation successful.
```

例

ログ情報の保存を停止する

DISABLE LOG OUTPUT

関連コマンド

ENABLE LOG OUTPUT（81 ページ）

FLUSH LOG OUTPUT（87 ページ）

PURGE LOG（91 ページ）

SET LOG OUTPUT（107 ページ）

SHOW LOG（144 ページ）

SHOW LOG COUNTER（147 ページ）

SHOW LOG OUTPUT（149 ページ）

SHOW LOG STATUS（151 ページ）

DISABLE NTP

カテゴリー：運用・管理

DISABLE NTP

解説

SNTP モジュールを無効にする。デフォルトは無効

入力・出力・画面例

```
Manager > disable ntp

Operation successful.
```

例

SNTP モジュールを無効にする

DISABLE NTP

関連コマンド

ADD NTP PEER (49 ページ)

DELETE NTP PEER (62 ページ)

ENABLE NTP (82 ページ)

PURGE NTP (93 ページ)

RESET NTP (94 ページ)

SET NTP (110 ページ)

SHOW NTP (153 ページ)

DISABLE RADIUSACCOUNTING

カテゴリー：運用・管理

DISABLE RADIUSACCOUNTING

解説

RADIUS (Remote Authentication Dial In User Server) サーバーのアカウントिंग機能を無効にする。
デフォルトは無効。

入力・出力・画面例

```
Manager > disable radiusaccounting

Operation successful.
```

例

RADIUS サーバーのアカウントिंग機能を無効にする

DISABLE RADIUSACCOUNTING

関連コマンド

ENABLE RADIUSACCOUNTING (83 ページ)

SET RADIUSACCOUNTING (116 ページ)

SHOW RADIUSACCOUNTING (157 ページ)

DISABLE SNMP

カテゴリー：運用・管理

DISABLE SNMP

解説

SNMP モジュールを無効にする。デフォルトは無効

入力・出力・画面例

```
Manager > disable snmp  
  
Operation successful.
```

例

SNMP を無効にする

DISABLE SNMP

関連コマンド

ENABLE SNMP (84 ページ)

SET SNMP LISTENPORT (120 ページ)

SET SNMPTRAP LISTENPORT

SHOW SNMP (159 ページ)

DISABLE SNMP COMMUNITY

カテゴリー：運用・管理

DISABLE SNMP COMMUNITY=*community*

community: SNMP コミュニティー名

解説

指定した SNMP コミュニティーを無効にする。デフォルトは無効

パラメーター

COMMUNITY SNMP コミュニティー名

入力・出力・画面例

```
Manager > disable snmp community=public  
  
Operation successful.
```

例

SNMP コミュニティー「public」を無効にする

DISABLE SNMP COMMUNITY=public

関連コマンド

ADD SNMP COMMUNITY (51 ページ)

CREATE SNMP COMMUNITY (57 ページ)

DELETE SNMP COMMUNITY (64 ページ)

DESTROY SNMP COMMUNITY (66 ページ)

DISABLE SNMP COMMUNITY TRAP

ENABLE SNMP COMMUNITY (85 ページ)

ENABLE SNMP COMMUNITY TRAP

SET SNMP COMMUNITY (118 ページ)

SHOW SNMP COMMUNITY (162 ページ)

DISABLE TELNET SERVER

カテゴリー：運用・管理

DISABLE TELNET SERVER

解説

Telnet サーバー機能を無効にする。デフォルトは有効

入力・出力・画面例

```
Manager > disable telnet server  
  
Operation successful.
```

例

Telnet サーバー機能を無効にする

DISABLE TELNET SERVER

関連コマンド

ENABLE TELNET SERVER (86 ページ)

SET TELNET (123 ページ)

SHOW TELNET (167 ページ)

ENABLE ACCESS FILTER

カテゴリー：運用・管理

ENABLE ACCESS FILTER=**{SNMP|FTP|TELNET|HTTP|ICMP|GLOBAL|ALL}**

解説

本システムへのアクセスフィルター機能を有効にする。

パラメーター

FILTER 各サービスに対応するグループ名。GLOBAL を指定するとすべてのサービス (SNMP、FTP、TELNET、HTTP、ICMP 以外のサービスも含む) を指定したこととなる。ALL を指定すると SNMP、FTP、TELNET、HTTP、ICMP、GLOBAL すべてが対象になる

入力・出力・画面例

```
Manager > enable access filter=telnet

Operation successful.
```

例

Telnet サービスのアクセスフィルターを有効にする

ENABLE ACCESS FILTER=TELNET

関連コマンド

ADD ACCESS FILTER (47 ページ)

DELETE ACCESS FILTER ENTRY (59 ページ)

DISABLE ACCESS FILTER (67 ページ)

SET ACCESS FILTER (96 ページ)

SET ACCESS FILTER ENTRY (97 ページ)

SHOW ACCESS FILTER (127 ページ)

ENABLE FTP SERVER

カテゴリー：運用・管理

ENABLE FTP SERVER

解説

FTP サーバー機能を有効にする。デフォルトは有効

入力・出力・画面例

```
Manager > enable ftp server  
  
Operation successful.
```

例

FTP サーバー機能を有効にする

ENABLE FTP SERVER

関連コマンド

DISABLE FTP SERVER (68 ページ)

SET FTP LISTENPORT (105 ページ)

SHOW FTP (139 ページ)

ENABLE HTTP SERVER

カテゴリー：運用・管理

ENABLE HTTP SERVER

解説

HTTP サーバーを有効にする。WEB GUI を利用する場合は、本コマンドにより HTTP サーバーを有効にする必要がある。デフォルトは無効。

入力・出力・画面例

```
Manager > enable http server  
  
Operation successful.
```

例

HTTP サーバーを有効にする

ENABLE HTTP SERVER

関連コマンド

DISABLE HTTP SERVER (69 ページ)

SHOW HTTP SERVER (140 ページ)

ENABLE LOG

カテゴリー：運用・管理

ENABLE LOG

解説

ログ機能を有効にする。デフォルトは有効

入力・出力・画面例

```
Manager > enable log  
  
Operation successful.
```

例

ログ機能を有効にする

ENABLE LOG

関連コマンド

DISABLE LOG (70 ページ)

SHOW LOG (144 ページ)

SHOW LOG OUTPUT (149 ページ)

SHOW LOG STATUS (151 ページ)

ENABLE LOG OUTPUT

カテゴリー：運用・管理

ENABLE LOG OUTPUT [= {TEMPORARY|SYSLOG}]

解説

指定した出力先へのログ出力を有効にする

デフォルトは TEMPORARY（メモリー）へは有効。syslog サーバーへは無効

パラメーター

OUTPUT ログ出力先。TEMPORARY を指定すると、メモリーにログを出力する。再起動するとメモリー上のログは消失する。SYSLOG を指定すると syslog サーバーにログ情報を送信する。指定しない場合、すべてのログ出力が有効になる

入力・出力・画面例

```
Manager > enable log output=syslog

Operation successful.
```

例

syslog サーバーへのログ出力を開始する

ENABLE LOG OUTPUT=SYSLOG

関連コマンド

DISABLE LOG OUTPUT (71 ページ)

FLUSH LOG OUTPUT (87 ページ)

PURGE LOG (91 ページ)

SET LOG OUTPUT (107 ページ)

SHOW LOG (144 ページ)

SHOW LOG COUNTER (147 ページ)

SHOW LOG OUTPUT (149 ページ)

SHOW LOG STATUS (151 ページ)

ENABLE NTP

カテゴリー：運用・管理

ENABLE NTP

解説

SNTP モジュールを有効にする。デフォルトは無効

入力・出力・画面例

```
Manager > enable ntp

Operation successful.
```

例

SNTP モジュールを有効にする

ENABLE NTP

関連コマンド

ADD NTP PEER (49 ページ)

DELETE NTP PEER (62 ページ)

DISABLE NTP (72 ページ)

PURGE NTP (93 ページ)

RESET NTP (94 ページ)

SET NTP (110 ページ)

SHOW NTP (153 ページ)

ENABLE RADIUSACCOUNTING

カテゴリー：運用・管理

ENABLE RADIUSACCOUNTING

解説

RADIUS (Remote Authentication Dial In User Server) サーバーのアカウントिंग機能を有効にする。
デフォルトは無効。

入力・出力・画面例

```
Manager > enable radiusaccounting

Operation successful.
```

例

RADIUS サーバーのアカウントिंग機能を有効にする

ENABLE RADIUSACCOUNTING

関連コマンド

DISABLE RADIUSACCOUNTING (73 ページ)

SET RADIUSACCOUNTING (116 ページ)

SHOW RADIUSACCOUNTING (157 ページ)

ENABLE SNMP

カテゴリー：運用・管理

ENABLE SNMP

解説

SNMP モジュールを有効にする。デフォルトは無効

入力・出力・画面例

```
Manager > enable snmp

Operation successful.
```

例

SNMP を有効にする

ENABLE SNMP

関連コマンド

DISABLE SNMP (74 ページ)

SET SNMP LISTENPORT (120 ページ)

SET SNMPTRAP LISTENPORT

SHOW SNMP (159 ページ)

ENABLE SNMP COMMUNITY

カテゴリー：運用・管理

ENABLE SNMP COMMUNITY=community

community: SNMP コミュニティー名

解説

SNMP コミュニティーを有効にする。デフォルトは無効

パラメーター

COMMUNITY SNMP コミュニティー名

入力・出力・画面例

```
Manager > enable snmp community=public  
  
Operation successful.
```

例

SNMP コミュニティー「public」を有効にする

ENABLE SNMP COMMUNITY=public

関連コマンド

ADD SNMP COMMUNITY (51 ページ)

CREATE SNMP COMMUNITY (57 ページ)

DELETE SNMP COMMUNITY (64 ページ)

DESTROY SNMP COMMUNITY (66 ページ)

DISABLE SNMP COMMUNITY (75 ページ)

DISABLE SNMP COMMUNITY TRAP

ENABLE SNMP COMMUNITY TRAP

SET SNMP COMMUNITY (118 ページ)

SHOW SNMP COMMUNITY (162 ページ)

ENABLE TELNET SERVER

カテゴリー：運用・管理

ENABLE TELNET SERVER

解説

Telnet サーバー機能を有効にする。デフォルトは有効

入力・出力・画面例

```
Manager > enable telnet server

Operation successful.
```

例

Telnet サーバー機能を有効にする

ENABLE TELNET SERVER

関連コマンド

DISABLE TELNET SERVER (76 ページ)

SET TELNET (123 ページ)

SHOW TELNET (167 ページ)

FLUSH LOG OUTPUT

カテゴリー：運用・管理

FLUSH LOG OUTPUT [=TEMPORARY]

解説

ログメッセージを削除する

パラメーター

OUTPUT メモリー上のログをすべて削除する

入力・出力・画面例

```
Manager > flush log output  
  
Operation successful.
```

例

メモリー上のログをすべて消去する

FLUSH LOG OUTPUT

関連コマンド

DISABLE LOG OUTPUT (71 ページ)

ENABLE LOG OUTPUT (81 ページ)

PURGE LOG (91 ページ)

SET LOG OUTPUT (107 ページ)

SHOW LOG (144 ページ)

SHOW LOG COUNTER (147 ページ)

SHOW LOG OUTPUT (149 ページ)

SHOW LOG STATUS (151 ページ)

HELP

カテゴリー：運用・管理

HELP [{*command*|*function*}]

command: 対象となるコマンド名。省略時は、オンラインヘルプのトップページが表示される

function: 対象となる機能名。省略時は、オンラインヘルプのトップページが表示される。次の値を指定できる（大文字の部分だけの入力で可）。アクセスフィルター（Accessfilter）コンフィグレーション（Configuration）フォワーディングデータベース（FDb）ファイルシステム（Filesystem）HTTP サーバー（Http）IP（IP）IP マルチキャスト（IGmpsnooping）ログ（LOG）NTP（Ntp）QoS（QOs）ポート認証（PORtauth）認証サーバー（Radius）システム（SYstem）スクリプト（SCript）SNMP（SNmp）スイッチング（SWitch）LDF 検出（LOOpdetection）受信レート検出（STOrm detection）ターミナルサービス（Terminal）バーチャル LAN（Vlan）キーバインド（Keybind）

解説

コマンドのオンラインヘルプを表示する。F1 キー、?キーも同義

入力・出力・画面例

```
Manager > help
```

GS908SS/GS916SS/GS924SS オンラインヘルプ

This online help is written in Japanese.

ヘルプは次のトピックを説明しています。

入力は大文字の部分だけでかまいません。（"HELP KEYBIND" は "H K"と省略可）

Help Accessfilter	アクセスフィルター
Help Configuration	コンフィグレーション
Help FDb	フォワーディングデータベース
Help Filesystem	ファイルシステム
Help Http	HTTP サーバー
Help IP	IP
Help IGmpsnooping	IP マルチキャスト
Help LOG	ログ
Help Ntp	NTP
Help QOs	QoS
Help Portauth	ポート認証
Help Radius	認証サーバー
Help SYstem	システム
Help SCript	スクリプト
Help SNmp	SNMP
Help Switch	スイッチング
Help LOOpdetection	LDF 検出
Help STOrm detection	受信レート検出
Help Terminal	ターミナルサービス

Help Vlan	バーチャル LAN
Help Keybind	キーバインド

例

オンラインヘルプのトップページを表示する

HELP

システムのオンラインヘルプを表示する

HELP SYSTEM

LOGOFF

カテゴリー：運用・管理

LOGOFF

解説

ログインセッションからログアウトする。LOGOUT、QUIT、EXIT、BYE も同義。プロンプトに入力のない状態で CTRL+D によるショートカットも使用可能

入力・出力・画面例

```
Manager > logoff  
  
Good bye.
```

例

本システムからログアウトする

LOGOFF

PURGE LOG

カテゴリー：運用・管理

PURGE LOG [= {TEMPORARY|SYSLOG}]

解説

指定出力先のログ機能に関する設定・ログメッセージ・カウンターを削除する。

パラメーター

LOG 対象となるログ出力先。TEMPORARY（メモリー）または SYSLOG

入力・出力・画面例

```
Manager > purge log

Operation successful.

Manager > purge log=syslog

Operation successful.
```

例

ログ機能に関する設定をすべて削除する

PURGE LOG

出力先 SYSLOG に関する設定を削除する

PURGE LOG=SYSLOG

備考・注意事項

出力先を指定しなかった場合、ログ機能の設定がデフォルトに戻り、ログメッセージはすべて消去される

関連コマンド

DISABLE LOG OUTPUT（71 ページ）

ENABLE LOG OUTPUT（81 ページ）

FLUSH LOG OUTPUT (87 ページ)

SET LOG OUTPUT (107 ページ)

SHOW LOG (144 ページ)

SHOW LOG COUNTER (147 ページ)

SHOW LOG OUTPUT (149 ページ)

SHOW LOG STATUS (151 ページ)

PURGE NTP

カテゴリー：運用・管理

PURGE NTP

解説

SNTP モジュールの設定情報をすべて消去する。
ただし、SNTP モジュールの有効/無効の設定は削除されない。

入力・出力・画面例

```
Manager > purge ntp

Operation successful.
```

例

SNTP モジュールの設定情報をすべて削除する

PURGE NTP

関連コマンド

ADD NTP PEER (49 ページ)
DELETE NTP PEER (62 ページ)
DISABLE NTP (72 ページ)
ENABLE NTP (82 ページ)
RESET NTP (94 ページ)
SET NTP (110 ページ)
SHOW NTP (153 ページ)

RESET NTP

カテゴリー：運用・管理

RESET NTP

解説

SNTP モジュールをリセットする。

ダイナミックな設定情報をすべて削除し、スタティックな設定情報を読み直し、SNTP リクエストを送信する。

入力・出力・画面例

```
Manager > reset ntp

Operation successful.
```

例

SNTP モジュールをリセットする

RESET NTP

関連コマンド

ADD NTP PEER (49 ページ)

DELETE NTP PEER (62 ページ)

DISABLE NTP (72 ページ)

ENABLE NTP (82 ページ)

PURGE NTP (93 ページ)

SET NTP (110 ページ)

SHOW NTP (153 ページ)

RESTART

カテゴリー：運用・管理

RESTART [REBOOT]

解説

システムを再起動する。

入力・出力・画面例

```
Manager > restart reboot  
  
Do restart system now ? (Y/N):
```

例

システムを再起動する

RESTART REBOOT

備考・注意事項

「Y」キーを押すと、システムを再起動する。「N」キーを押すと、コマンド入力待ちプロンプトに戻る

SET ACCESS FILTER

カテゴリー：運用・管理

SET ACCESS FILTER=**{SNMP|FTP|TELNET|HTTP|ICMP|GLOBAL|ALL}** **DEFAULT**=**{PASS|DISCARD}**

解説

アクセスフィルターグループの設定を変更する

パラメーター

FILTER 各サービスに対応するグループ名。GLOBAL を指定するとすべてのサービス (SNMP、FTP、TELNET、HTTP、ICMP 以外のサービスも含む) を指定したこととなる。ALL を指定すると、SNMP、FTP、TELNET、HTTP、ICMP、GLOBAL すべてを指定することになる

DEFAULT 対応するフィルターグループのデフォルト処理。PASS は許可、DISCARD は破棄。デフォルトは PASS

入力・出力・画面例

```
Manager > set access filter=telnet default=discard

Operation successful.
```

例

Telnet グループの IP アドレスを、デフォルトですべて破棄する設定に変更する

SET ACCESS FILTER=TELNET DEFAULT=DISCARD

関連コマンド

ADD ACCESS FILTER (47 ページ)

DELETE ACCESS FILTER ENTRY (59 ページ)

DISABLE ACCESS FILTER (67 ページ)

ENABLE ACCESS FILTER (77 ページ)

SET ACCESS FILTER ENTRY (97 ページ)

SHOW ACCESS FILTER (127 ページ)

SET ACCESS FILTER ENTRY

カテゴリー：運用・管理

```
SET ACCESS FILTER={SNMP|FTP|TELNET|HTTP|ICMP|GLOBAL} ENTRY=num
    [IPADDRESS=ipadd] [MASK=ipadd] [ACTION={PASS|DISCARD}] [PORT={port-list|
    ALL}]
```

num: エントリー番号

ipadd: IP アドレス。xxx.xxx.xxx.xxx の形式

port-list: スイッチポート番号 (1~)。ハイフン [-]、カンマ [,] を使った複数指定も可能)

解説

アクセスフィルターグループのエントリーを変更する

パラメーター

FILTER 各サービスに対応するグループ名。GLOBAL を指定するとすべてのサービス (SNMP、FTP、TELNET、HTTP、ICMP 以外のサービスも含む) を指定したこととなる

ENTRY 対象となるアクセスフィルターのエントリー番号。SHOW ACCESS FILTER コマンドで FILTER を指定して表示されるエントリー番号を指定する

IPADDRESS フィルタリング対象の IP アドレス

MASK サブネットマスク。省略時は IP アドレスのクラス標準マスクが用いられる

ACTION パケットがフィルターの条件に一致したときのアクション

PORT 対象となるスイッチポート番号または ALL。ALL を指定した場合はすべてのスイッチポートが対象となる

入力・出力・画面例

```
Manager > set access filter=telnet entry=1 ipaddress=192.168.1.2 mask=255.255.255.255 ac-
tion=pass port=1-7

Operation successful.
```

例

Telnet グループのエントリー 1 を変更する

```
SET ACCESS FILTER=TELNET ENTRY=1 IPADDRESS=192.168.1.2
    MASK=255.255.255.255 ACTION=PASS PORT=1-7
```

備考・注意事項

エントリーを削除した後に、CREATE CONFIG コマンドで設定を保存すると、エントリー番号が詰められる。エントリー番号を指定する場合は、SHOW ACCESS FILTER コマンドで確認してから指定すること

関連コマンド

ADD ACCESS FILTER (47 ページ)

DELETE ACCESS FILTER ENTRY (59 ページ)

DISABLE ACCESS FILTER (67 ページ)

ENABLE ACCESS FILTER (77 ページ)

SET ACCESS FILTER (96 ページ)

SHOW ACCESS FILTER (127 ページ)

SET ASYN

カテゴリー：運用・管理

SET ASYN LOGIN={ON|OFF|YES|NO|TRUE|FALSE}

解説

コンソール（非同期）ポートのパラメーターを変更する

パラメーター

LOGIN コンソールポートからログインできるかどうかを設定する。この設定はログアウト後に有効となる。Telnet 接続できない状態で設定を行うと初期化を行うまでログインできなくなるので注意。ON、YES、TRUE、または OFF、NO、FALSE はそれぞれ同じ（有効または無効）

入力・出力・画面例

```
Manager > set asyn login=off

Operation successful.
```

例

コンソールからのログインを無効にする

SET ASYN LOGIN=OFF

関連コマンド

SHOW ASYN (129 ページ)

SHOW CONSOLE (134 ページ)

SET AUTHENTICATION

カテゴリー：運用・管理

SET AUTHENTICATION [TIMEOUT=1..15] [DEADTIME=0..1440]
[RETRANSMITCOUNT=1..5] [DEAD-ACTION={DENY|PERMIT}]

解説

RADIUS サーバー宛て通信の応答待ち時間、DEADTIME、再送回数の設定を行う。SET RADIUS コマンドと同じ。

パラメーター

TIMEOUT RADIUS サーバーへの要求に対する応答待ち時間（秒）。要求送信後 TIMEOUT 秒以内に応答がない場合はその回の通信がタイムアウトしたと見なす。デフォルトは 6 秒

DEADTIME RADIUS サーバーへの要求が規定回数（1 + RETRANSMITCOUNT 回）タイムアウトしたときに、該当サーバーが「使用不可」と見なして同サーバーの使用を抑制する時間（分）。デフォルトは 0 分

RETRANSMITCOUNT RADIUS サーバーへの要求再送回数。RADIUS サーバーへの要求がタイムアウトしたときは、最大 RETRANSMITCOUNT 回まで再送を試みる。RETRANSMITCOUNT 回再送しても応答がなかった場合は、該当 RADIUS サーバーが「使用不可」と見なして、認証サーバーリスト内の次のサーバーに要求を送信する。また、「使用不可」と見なしたサーバーの使用を、DEADTIME（分）の間だけ抑制する。デフォルトは 3 回

DEAD-ACTION RADIUS サーバーからの応答がない時、通信を許可する/許可しないを選択。デフォルトは許可しない

入力・出力・画面例

```
Manager > set authentication timeout=10

Operation successful.
```

例

応答待ち時間を 10 秒に設定する

```
SET AUTHENTICATION TIMEOUT=10
```

備考・注意事項

ポート認証機能において、SET AUTHENTICATION コマンドの DEAD-ACTION パラメーターに PERMIT を指定し、RADIUS サーバーからの応答がないときに通信を許可するよう設定する場合は、下記の条件を満たすように各パラメーターを設定する。

$\text{SERVERTIMEOUT} > \text{TIMEOUT} \times (\text{RETRANSMITCOUNT} + 1) \times \text{RADIUS サーバー数}$

SERVERTIMEOUT: SET PORTAUTH PORT コマンドのパラメーター。デフォルト 30 秒

TIMEOUT: SET AUTHENTICATION コマンドのパラメーター。デフォルト 6 秒

RETRANSMITCOUNT: SET AUTHENTICATION コマンドのパラメーター。デフォルト 3 回

RADIUS サーバー数: ADD RADIUSSERVER SERVER コマンドで登録した RADIUS サーバーの数

特に RADIUS サーバーを 2 台登録する場合は、各パラメーターがデフォルトのままだと条件を満たさないため、条件を満たすように設定を変更する必要がある。

関連コマンド

ADD RADIUSSERVER SERVER (50 ページ)

DELETE RADIUSSERVER SERVER (63 ページ)

SET CONFIG

カテゴリー：運用・管理

SET CONFIG={*filename*|NONE}

filename: 設定ファイル名「.cfg」または「.scp」

解説

起動時に読み込まれるデフォルトの設定ファイル（起動時設定ファイル）を指定する

パラメーター

CONFIG 設定スクリプトファイル（.cfg または .scp）。NONE を指定した場合は、起動時設定ファイルの設定がなしになる

入力・出力・画面例

```
Manager > set config=sample.cfg

Operation successful.

Manager > set config=none

Operation successful.
```

例

起動時設定ファイルを指定する

```
SET CONFIG=sample.cfg
```

次回の起動時に空の設定で起動させる

```
SET CONFIG=NONE
```

備考・注意事項

SET PASSWORD コマンドで変更されたパスワードは設定が空の状態でも有効（設定を保存しなくても再起動後も有効）

関連コマンド

CREATE CONFIG (56 ページ)

SHOW CONFIG (132 ページ)

SET CONSOLE

カテゴリー：運用・管理

SET CONSOLE [PAGE={4..99|OFF|0}] [TIMEOUT=0..32767]

解説

コンソール（ログインセッション）の設定パラメーターを変更する。

パラメーター

PAGE 1画面当たりの表示行数を4～99の範囲で指定する。デフォルトは22。OFF（または0）を指定した場合は、ページ単位での一時停止が行われなくなる。Telnetセッションと共通。

TIMEOUT 入力待ちの状態が続いたときセッションが切断されるまでの時間を指定する。0（秒）を指定した場合、本機能は無効となる（切断されない）。0～32767（秒）まで指定可能。デフォルトは300（秒）

入力・出力・画面例

```
Manager > set console timeout=600  
  
Operation successful.
```

例

入力待ちの状態が続いても切断されないように設定する

SET CONSOLE TIMEOUT=0

備考・注意事項

コンソールターミナルからのセッションとTelnetセッションの両方に対し、このコマンドで指定したタイムアウト時間が使用される

SET FTP LISTENPORT

カテゴリー：運用・管理

SET FTP LISTENPORT=1..65535

解説

FTP サーバーのリスニングポートを変更する

パラメーター

LISTENPORT FTP サーバーのリスニング TCP ポートを 1～65535 で設定する。デフォルトは 21

入力・出力・画面例

```
Manager > set ftp listenport=150  
  
Operation successful.
```

例

FTP サーバーのリスニングポートを 150 に設定する

SET FTP LISTENPORT=150

備考・注意事項

FTP サーバーのリスニングポート番号に、他のサービスのデフォルト値を設定した場合、再起動後にその設定が記憶されないことがある

関連コマンド

DISABLE FTP SERVER (68 ページ)

ENABLE FTP SERVER (78 ページ)

SHOW FTP (139 ページ)

SET HTTP LISTENPORT

カテゴリー：運用・管理

SET HTTP LISTENPORT=1..65535

解説

HTTP プロトコルのポート番号を変更する。デフォルトでは、TCP ポート 80 番を使用する。

パラメーター

LISTENPORT HTTP サーバーのリスニング TCP ポートを 1～65535 で設定する。デフォルトは 80

備考・注意事項

HTTP サーバーのリスニングポート番号に、他のサービスのデフォルト値を設定した場合、再起動後にその設定が記憶されないことがある

関連コマンド

DISABLE HTTP SERVER (69 ページ)

ENABLE HTTP SERVER (79 ページ)

SHOW HTTP SERVER (140 ページ)

SET LOG OUTPUT

カテゴリー：運用・管理

```
SET LOG OUTPUT={TEMPORARY|SYSLOG} [SERVER=ipadd] [LISTENPORT=1..65535]
    [SEVERITY=[op] severity] [FACILITY={DEFAULT|KERNEL|USER|MAIL|DAEMON|AUTH|
    SYSLOG|LPR|NEWS|UUCP|CRON|AUTHPRIV|FTP|NTP|AUDIT|ALERT|CRON2|
    LOCAL0..LOCAL7|0..23}]
```

ipadd: IP アドレス。xxx.xxx.xxx.xxx の形式

op: 比較演算子。小さい [<]、大きい [>]、等しくない [!]、等しい [=] (何も指定しない) のいずれか

severity: ログレベル (0~7)。省略するとすべてのログレベルとなる

解説

ログメッセージの出力定義を設定する。ログレベルの各内容と演算子の意味は下記の表に示す

パラメーター

OUTPUT ログ出力先 (TEMPORARY か SYSLOG) を指定。デフォルトは TEMPORARY

SERVER syslog のメッセージの転送先 IP アドレス (UDP ポート番号 514) を指定。OUTPUT が SYSLOG の時のみ有効。ここでアドレスを設定しなければ syslog サーバーへ送信できない

LISTENPORT syslog サーバーの UDP ポートを 1~65535 で設定する。デフォルトは 514

SEVERITY メッセージのログレベル。デフォルトは 3 以上のログレベルにマッチする。指定したログレベルは TEMPORARY と SYSLOG でそれぞれ別となる

FACILITY syslog サーバーへ送信するログファシリティ値。OUTPUT が SYSLOG の場合のみ有効 (設定可能)。DEFAULT を指定した場合は、あらかじめシステムで決められたファシリティ値で syslog サーバーへ送信する。DEFAULT 以外を指定した場合は、ファシリティ値を上書きして syslog サーバーへ送信する。0~23 のファシリティコード値も指定できる

入力・出力・画面例

```
Manager > set log output=syslog server=192.168.1.1 severity=>5

Operation successful.

Manager > set log output=syslog facility=local0

Operation successful.
```

Lv	呼称	説明
----	----	----

7	CRITICAL	きわめて重大な障害が発生している
6	URGENT	緊急を要する情報。障害が発生し、システムの動作に影響を与える（与えた）可能性がある
5	IMPORTANT	管理者の注意を要する重要な情報。障害の可能性はある
4	NOTICE	管理者の注意を要する可能性をはらむ情報
3	INFO	各種イベントの通知。通常運用を示すもので緊急性はない
2	DETAIL	詳細な情報。通常運用時には無視できるが、有効な情報を含む可能性あり
1	TRIVIAL	DETAIL よりさらに詳細な情報
0	DEBUG	デバッグ用のきわめて詳細な情報。大量のメッセージが出力される可能性あり

表 17: メッセージのログレベル

演算子	例	意味
< (以下)	SEVERITY=<5	ログレベルが 5 以下
> (以上)	SEVERITY=>5	ログレベルが 5 以上
! (等しくない)	SEVERITY=!5	ログレベルが 5 以外
なし (等しい)	SEVERITY=5	ログレベルが 5 に等しい

表 18: 演算子 (op) と例

ファシリティー値	ファシリティー	ファシリティーコード
KERNEL	kernel messages	0
USER	user-level messages	1
MAIL	mail system	2
DAEMON	system daemons	3
AUTH	security/authorization messages	4
SYSLOG	messages generated internally by syslogd	5
LPR	line printer subsystem	6
NEWS	network news subsystem	7
UUCP	UUCP subsystem	8
CRON	clock daemon	9
AUTHPRIV	security/authorization messages	11
FTP	FTP daemon	12
NTP	NTP subsystem	13
AUDIT	log audit	14
ALERT	log alert	15
CRON2	clock daemon	16
LOCAL0	local use 0 (local0)	17
LOCAL1	local use 1 (local1)	18
LOCAL2	local use 2 (local2)	19

LOCAL3	local use 3 (local3)	20
LOCAL4	local use 4 (local4)	21
LOCAL5	local use 5 (local5)	22
LOCAL6	local use 6 (local6)	22
LOCAL7	local use 7 (local7)	23

表 19: ログファシリティ

例

syslog サーバーのアドレス、ログレベルを設定する

```
SET LOG OUTPUT=SYSLOG SERVER=192.168.1.1 SEVERITY=>5
```

syslog サーバーのファシリティ値を設定する

```
SET LOG OUTPUT=SYSLOG FACILITY=LOCAL10
```

備考・注意事項

syslog サーバーのリスニングポート番号に、他のサービスのデフォルト値を設定した場合、再起動後にその設定が記憶されないことがある

関連コマンド

DISABLE LOG OUTPUT (71 ページ)

ENABLE LOG OUTPUT (81 ページ)

FLUSH LOG OUTPUT (87 ページ)

PURGE LOG (91 ページ)

SHOW LOG COUNTER (147 ページ)

SHOW LOG OUTPUT (149 ページ)

SHOW LOG STATUS (151 ページ)

SET NTP

カテゴリー：運用・管理

```
SET NTP [PEER=ipadd] [UTCOFFSET={time-zone|utc-offset}]
[LISTENPORT={1..65535}]
```

ipadd: IP アドレス。xxx.xxx.xxx.xxx の形式

time-zone: タイムゾーン名

utc-offset: 協定世界時 (UTC) との時間差を、± hh:mm:ss の形式で指定

解説

時刻同期をとる SNTP サーバーの IP アドレスを変更する。現地時間と協定世界時 (UTC) の差を設定する。SNTP で扱われる時間はすべて UTC なので、必ずオフセットを設定する必要がある。

パラメーター

PEER SNTP サーバーの IP アドレス

UTCOFFSET 協定世界時からのオフセットを指定する。定義済みのタイムゾーン名または時間差で指定する。時間差で指定する場合、UTC より進んでいる場合はプラス (+) を、遅れている場合はマイナス (-) を付ける。デフォルトは、+09:00:00(JST)

LISTENPORT SNTP サーバーの UDP ポートを 1~65535 で設定する。デフォルトは 123

入力・出力・画面例

```
Manager > set ntp peer=192.168.1.1

Operation successful.
```

ASIA	+8:00	Asia
ACDT	+10:30	Australian Central Daylight Time
ACST	+9:30	Australian Central Standard Time
AEDT	+11:00	Australian Eastern Daylight Time
AEST	+10:00	Australian Eastern Standard Time
AWST	+8:00	Australian Western Standard Time
BST	+1:00	British Standard Time
CHINA	+8:00	China
GMT	+0:00	Greenwich Mean Time
UK	+0:00	Greenwich Mean Time

HK	+8:00	Hong Kong
JST	+9:00	Japan Standard Time
MET	+1:00	Mid-European time
NZDT	+13:00	New Zealand Daylight Time
NZST	+12:00	New Zealand Standard Time
SING	+8:00	Singapore
TAIWAN	+8:00	Taiwan
UTC	+0:00	Universal Coordinated Time
CDT	-5:00	US Central Daylight Time
CST	-6:00	US Central Standard Time
EDT	-4:00	US Eastern Daylight Time
EST	-5:00	US Eastern Standard Time
MDT	-6:00	US Mountain Daylight Time
MST	-7:00	US Mountain Standard Time
PDT	-7:00	US Pacific Daylight Time
PST	-8:00	US Pacific Standard Time
DEFAULT	-	-
NONE	-	-

表 20: タイムゾーン名一覧

例

SNTP サーバーの IP アドレスを設定する

```
SET NTP PEER=192.168.1.1
```

UTC オフセットをタイムゾーンで指定する（日本）

```
SET NTP UTCOFFSET=JST
```

UTC オフセットを時間差で指定する（日本）

```
SET NTP UTCOFFSET=+9:00:00
```

SNTP サーバーの UDP ポートを 321 へ設定する

```
SET NTP LISTENPORT=321
```

備考・注意事項

SNTP サーバーのリスニングポート番号に、他のサービスのデフォルト値を設定した場合、再起動後にその設定が記憶されないことがある

関連コマンド

ADD NTP PEER (49 ページ)

DELETE NTP PEER (62 ページ)

DISABLE NTP (72 ページ)

ENABLE NTP (82 ページ)

PURGE NTP (93 ページ)

RESET NTP (94 ページ)

SHOW NTP (153 ページ)

SET PASSWORD

カテゴリー：運用・管理

SET PASSWORD

解説

ログインパスワードを設定する。16 文字以下。使用可能文字は半角英数字、コロン(:)を除く記号およびスペース。大文字小文字を区別する。New password に何も入力しなければパスワードなしになる

入力・出力・画面例

```
Manager > set password

Old password : *****
New password : *****
Confirm      : *****

Password has been changed.
```

例

パスワードを変更する

SET PASSWORD

備考・注意事項

変更されたパスワードは設定ファイルには保存されない

関連コマンド

SHOW SYSTEM (164 ページ)

SET RADIUS

カテゴリー：運用・管理

SET RADIUS [TIMEOUT=1..15] [DEADTIME=0..1440] [RETRANSMITCOUNT=1..5]
[DEAD-ACTION={DENY|PERMIT}]

解説

サーバーとの通信に使用するパラメーターを変更する。SET AUTHENTICATION コマンドと同じ

パラメーター

TIMEOUT RADIUS サーバーへの要求に対する応答待ち時間（秒）。要求送信後 TIMEOUT 秒以内に応答がない場合はその回の通信がタイムアウトしたと見なす。デフォルトは 6 秒

DEADTIME RADIUS サーバーへの要求が規定回数（1 + RETRANSMITCOUNT 回）タイムアウトしたときに、該当サーバーが「使用不可」と見なして同サーバーの使用を抑制する時間（分）。デフォルトは 0 分

RETRANSMITCOUNT RADIUS サーバーへの要求再送回数。RADIUS サーバーへの要求がタイムアウトしたときは、最大 RETRANSMITCOUNT 回まで再送を試みる。RETRANSMITCOUNT 回再送しても応答がなかった場合は、該当 RADIUS サーバーが「使用不可」と見なして、認証サーバーリスト内の次のサーバーに要求を送信する。また、「使用不可」と見なしたサーバーの使用を、DEADTIME（分）の間だけ抑制する。デフォルトは 3 回

DEAD-ACTION RADIUS サーバーからの応答がない時、通信を許可する/許可しないを選択。デフォルトは許可しない

入力・出力・画面例

```
Manager > set radius timeout=10

Operation successful.
```

例

応答待ち時間を 10 秒に設定する

```
SET RADIUS TIMEOUT=10
```

関連コマンド

ADD RADIUSSERVER SERVER (50 ページ)

DELETE RADIUSSERVER SERVER (63 ページ)

SET RADIUSACCOUNTING

カテゴリー：運用・管理

```
SET RADIUSACCOUNTING [STATUS={ENABLED|DISABLED}] [SERVERPORT=port]
[TYPE=NETWORK] [TRIGGER={START_STOP|STOP_ONLY}] [UPDATEENABLE={ENABLED|
DISABLED}] [INTERVAL=30..300]
```

port: UDP ポート番号。RADIUS サーバーのアカウントिंगに使用 (1 ~ 65535)

解説

RADIUS (Remote Authentication Dial In User Server) サーバーのアカウントिंग機能の設定を変更する

パラメーター

STATUS アカウントिंग機能の有効/無効を設定する。ENABLE RADIUSACCOUNTING コマンド、DISABLE RADIUSACCOUNTING コマンドと同義

SERVERPORT RADIUS サーバーのアカウントिंग用 UDP ポート番号。デフォルトは 1813 番。リストに登録されているすべての Radius サーバーに対して設定される。ADD RADIUSSERVER SERVER コマンドの ACCPORT パラメーターで指定したポート番号と同じ番号を指定する

TYPE アカウントिंग情報を転送して蓄積する場所を指定する。NETWORK (アカウントिंगサーバー) のみが指定可能

TRIGGER アカウントिंग要求パケットをサーバーに送出するタイミングを設定する。START_STOP (利用開始時と終了時にパケット送信) と STOP_ONLY (利用終了時にのみパケット送信) から選択。デフォルトは、START_STOP

UPDATEENABLE ユーザーが利用中に、利用状況をサーバーに送信するアカウントिंग要求 (インターリム) パケットを送信するかどうかを指定する。ENABLED (送信する) か DISABLED (送信しない) から選択。デフォルトは、DISABLED

INTERVAL インターリムパケットを送信する間隔を設定する。30 ~ 300 (秒) の範囲で設定。デフォルトは、60 (秒)

入力・出力・画面例

```
Manager > set radiusaccounting status=enabled

Operation successful.
```

例

RADIUS アカウントिंग機能を有効にする

SET RADIUSACCOUNTING STATUS=ENABLED

備考・注意事項

RADIUS サーバーのアカウントिंग機能を有効にし、UPDATEENABLE を有効に設定しても、RADIUS サーバーから interim-update の RADIUS Request に対して、RADIUS Response が返ってこない場合には、インターリムパケットの送信間隔を経過しても interim-update の再送は行わない。

関連コマンド

DISABLE RADIUSACCOUNTING (73 ページ)

ENABLE RADIUSACCOUNTING (83 ページ)

SHOW RADIUSACCOUNTING (157 ページ)

SET SNMP COMMUNITY

カテゴリー：運用・管理

SET SNMP COMMUNITY=community [ACCESS={READ|WRITE}] [OPEN={ON|OFF|YES|NO|TRUE|FALSE}]

community: SNMP コミュニティ名

解説

SNMP コミュニティの設定パラメーターを変更する

パラメーター

COMMUNITY SNMP コミュニティ名

ACCESS コミュニティのアクセス権。READ (デフォルト) は読み出し (get、get-next) のみを許可、WRITE は読み書き両方 (get、get-next、set) を許可する。

OPEN SNMP オペレーションをすべてのホストに開放するかどうかを示す。NO (デフォルト) は、MANAGER パラメーターで指定したホストのみに制限する。YES を指定すると、すべての SNMP リクエストを受け入れる。ON、YES、TRUE および OFF、NO、FALSE はそれぞれ同じ意味

入力・出力・画面例

```
Manager > set snmp community=public access=read open=on

Operation successful.
```

例

SNMP コミュニティ「public」を読み出しのみすべてのホストへ開放する

SET SNMP COMMUNITY=public ACCESS=READ OPEN=ON

関連コマンド

ADD SNMP COMMUNITY (51 ページ)

CREATE SNMP COMMUNITY (57 ページ)

DELETE SNMP COMMUNITY (64 ページ)

DESTROY SNMP COMMUNITY (66 ページ)

DISABLE SNMP COMMUNITY (75 ページ)

DISABLE SNMP COMMUNITY TRAP
ENABLE SNMP COMMUNITY (85 ページ)
ENABLE SNMP COMMUNITY TRAP
SHOW SNMP COMMUNITY (162 ページ)

SET SNMP LISTENPORT

カテゴリー：運用・管理

SET SNMP LISTENPORT=1..65535

解説

SNMP (get/set) のリスニングポートを変更する

パラメーター

LISTENPORT SNMP (get/set) のリスニング UDP ポートを 1 ~ 65535 で設定する。デフォルトは 161

入力・出力・画面例

```
Manager > set snmp listenport=200

Operation successful.
```

例

SNMP のリスニングポートを 200 に設定する

SET SNMP LISTENPORT=200

関連コマンド

DISABLE SNMP (74 ページ)

ENABLE SNMP (84 ページ)

SET SNMPTRAP LISTENPORT

SHOW SNMP (159 ページ)

SET SYSTEM

カテゴリー：運用・管理

SET SYSTEM [NAME=*system-name*] [LOCATION=*location-name*]
[CONTACT=*contact-name*]

system-name: システム名。20 文字までの半角英数字、およびシャープ [#]、パーセント [%]、クエスチョン [?]、円マーク [\] を除く半角記号で入力する。空白を含む場合はダブルクォート ["] で囲み指定する。消去する場合は 2 つのダブルクォートを指定するか何も指定しない。

location-name: ロケーション名。20 文字までの半角英数字、およびシャープ [#]、パーセント [%]、クエスチョン [?]、円マーク [\] を除く半角記号で入力する。空白を含む場合はダブルクォート ["] で囲み指定する。消去する場合は 2 つのダブルクォートを指定するか何も指定しない

contact-name: コンタクト名。20 文字までの半角英数字、およびシャープ [#]、パーセント [%]、クエスチョン [?]、円マーク [\] を除く半角記号で入力する。空白を含む場合はダブルクォート ["] で囲み指定する。消去する場合は 2 つのダブルクォートを指定するか何も指定しない

解説

システム情報を設定する

パラメーター

NAME システム名

LOCATION 設置場所

CONTACT 連絡先

入力・出力・画面例

```
Manager > set system name="GS916SS"

Operation successful.

Manager > set system name=""

Operation successful.
```

例

システム名を設定する

```
SET SYSTEM NAME="GS916SS"
```

システム名を消去する

```
SET SYSTEM NAME=" "
```

備考・注意事項

システム名、ロケーション名、コンタクト名にシャープ [#] を含む文字列を指定した場合、シャープおよびそれ以降の文字列、パラメーターは無視される

関連コマンド

SHOW SYSTEM (164 ページ)

SET TELNET

カテゴリー：運用・管理

SET TELNET [LIMIT=1..4] [LISTENPORT={1..65535}]

解説

Telnet サーバーの設定を変更する

パラメーター

LIMIT Telnet セッションの最大接続数を 1～4 の範囲で設定

LISTENPORT Telnet サーバーのリスニング TCP ポートを 1～65535 で設定する。デフォルトは 23

入力・出力・画面例

```
Manager > set telnet listenport=120

Operation successful.

Manager > set telnet limit=2

Operation successful.
```

例

Telnet サーバーのリスニングポート番号を 120 に設定する

```
SET TELNET LISTENPORT=120
```

Telnet セッションの最大接続数を 2 に設定する

```
SET TELNET LIMIT=2
```

備考・注意事項

Telnet 接続の場合、ログインプロンプトが表示されてから 1 分以内にログインしないと、Telnet セッションが切断される

Telnet 接続の場合、3 回ログイン認証に失敗すると強制切断する。この設定は変更できない

Telnet サーバーのリスニングポート番号に、他のサービスのデフォルト値を設定した場合、再起動後にその

設定が記憶されないことがある

関連コマンド

DISABLE TELNET SERVER (76 ページ)

ENABLE TELNET SERVER (86 ページ)

SHOW TELNET (167 ページ)

SET TIME

カテゴリー：運用・管理

SET [TIME=*time*] [DATE=*date*]

time: 時刻 (hh:mm:ss の形式。hh は時 (0~23) mm は分 (0~59) ss は秒 (0~59))

date: 日付 (yyyy-mm-dd の形式。yyyy は西暦年、mm は月 (1~12) dd は日 (1~31))

解説

内蔵時計の日付と時刻を設定する

パラメーター

TIME 時刻

DATE 日付

入力・出力・画面例

```
Manager > set time=09:00:00 date=2008-02-15

System time is 2008-02-15 Friday at 09:00:00

Manager > set time=10:00:00

System time is 2008-02-15 Friday at 10:00:00
```

例

内蔵時計を 2008 年 2 月 15 日 9 時に設定する

```
SET TIME=09:00:00 DATE=2008-02-15
```

時刻だけを変更する

```
SET TIME=10:00:00
```

備考・注意事項

本製品はリアルタイムクロックを内蔵していないため、システムを再起動するたびに SET TIME コマンドで時刻をあわせる必要がある。SNTP サーバーにアクセスできる環境では、SNTP を使用するとよい

関連コマンド

SHOW TIME (168 ページ)

SHOW ACCESS FILTER

カテゴリー：運用・管理

SHOW ACCESS FILTER [= {SNMP|FTP|TELNET|HTTP|ICMP|GLOBAL|ALL}]

解説

アクセスフィルターグループの設定内容を表示する

パラメーター

FILTER 各サービスに対応するグループ名。GLOBAL を指定するとすべてのサービス (SNMP、FTP、TELNET、HTTP、ICMP 以外のサービスも含む) を指定したこととなる。ALL を指定すると、SNMP、FTP、TELNET、HTTP、ICMP、GLOBAL すべてを指定することになる。省略すると簡易一覧表示となる

入力・出力・画面例

```
Manager > show access filter
```

Filter	Default	Status
SNMP	Pass	Disabled
FTP	Pass	Disabled
TELNET	Discard	Disabled
HTTP	Pass	Disabled
ICMP	Pass	Disabled
GLOBAL	Pass	Disabled

```
Manager > show access filter=telnet
```

```
TELNET:
Access Filtering ..... Enabled
Port ..... 23
Default..... Discard
```

Entry	IP	MASK	ACTION	PORT
1	192.168.1.2	255.255.255.0	Pass	ALL
2	192.168.8.5	255.255.255.0	Pass	1-7
3	192.168.40.5	255.255.0.0	Pass	2

Filter	フィルターグループ名
Default	対応するフィルターグループのデフォルト処理。許可 (Pass) または破棄 (Discard)
Status	有効 (Enabled) または無効 (Disabled)

表 21:

Access Filtering	アクセスフィルター機能の有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
Port	対象となる接続ポート番号
Default	対応するフィルターグループのデフォルト処理。許可 (Pass) または破棄 (Discard)
Entry	エントリー番号
IP	フィルタリング対象の IP アドレス
MASK	マスクパターン
ACTION	パケットがフィルターの条件に一致したときのアクション。許可 (Pass) または破棄 (Discard)
PORT	対象となるポート番号 (数字) またはすべてのスイッチポート (ALL)

表 22: FILTER オプション指定時

例

フィルターグループ情報を一覧表示する

```
SHOW ACCESS FILTER
```

Telnet グループの設定内容を表示する

```
SHOW ACCESS FILTER=TELNET
```

関連コマンド

ADD ACCESS FILTER (47 ページ)

DELETE ACCESS FILTER ENTRY (59 ページ)

DISABLE ACCESS FILTER (67 ページ)

ENABLE ACCESS FILTER (77 ページ)

SET ACCESS FILTER (96 ページ)

SET ACCESS FILTER ENTRY (97 ページ)

SHOW ASYN

カテゴリー：運用・管理

SHOW ASYN

解説

コンソール（非同期）ポートの設定内容を表示する

入力・出力・画面例

```
Manager > show asyn
```

```
Serial Information
```

```
-----
```

```
Serial port
```

```
Status ..... Enabled
```

```
Data rate ..... 9600bps
```

```
-----
```

Serial port	コンソールポートの情報
Status	コンソールポートからログインできるかどうか。ログイン可（Enabled）または不可（Disabled）
Data rate	コンソールポートの通信速度。9600bps

表 23:

例

コンソール（非同期）ポートの設定内容を表示する

SHOW ASYN

関連コマンド

SET ASYN（99 ページ）

SHOW AUTHENTICATION

カテゴリー：運用・管理

SHOW AUTHENTICATION

解説

RADIUS (Remote Authentication Dial In User Server) サーバーの一覧を表示する。SHOW RADIUS コマンドと同じ

入力・出力・画面例

```
Manager > show authentication

RADIUS Server Parameters
-----
Server Retransmit Count..... 3
Server Timeout..... 6 sec
Server Dead Time..... 0 min
Server Dead Action..... Deny
-----

RADIUS Servers:
Server IP Address Auth Port  Encryption Key Auth Req  Auth Resp Status
-----
0.0.0.0           1812      <Not Defined>  0         0         Alive
0.0.0.0           1812      <Not Defined>  0         0         Alive
-----
```

Server Retransmit Count	RADIUS サーバー宛て通信の再送回数
Server Timeout	RADIUS サーバー宛て通信の応答待ち時間
Server Dead Time	RADIUS サーバー宛て通信の切り戻しスリープ時間
Server Dead Action.	RADIUS サーバーが無応答の時、通信を 許可する/許可しない を表示。
Server IP Address	RADIUS サーバーの IP アドレス
Auth Port	RADIUS サーバーの認証用 UDP ポート番号
Encryption Key	サーバー個別のパスワード
Auth Req	RADIUS サーバーに対して送った認証リクエストの数
Auth Resq	RADIUS サーバーから受け取った返信の数

表 24:

例

RADIUS サーバーの一覧を表示する

SHOW AUTHENTICATION

関連コマンド

ADD RADIUSSERVER SERVER (50 ページ)

DELETE RADIUSSERVER SERVER (63 ページ)

SHOW CONFIG

カテゴリー：運用・管理

SHOW CONFIG [{DYNAMIC [=module-name] | ALL [=module-name] }]

module-name: 機能名。SYSTEM、CONSOLE、VLAN、IP、STATIC、SWITCH、TRUNK、MIRROR、IGMPSNOOPING、LIMITATION、PORTAUTHENTICATION、ACCESSFILTER、TELNET、FTP、NTP、HTTP、LOG、QOS、LOOPDETECTION、STORMDETECTION のいずれかを指定する

解説

起動時設定ファイル名を表示する。また、DYNAMIC オプションを指定した場合は、現在の設定内容（メモリー上の設定内容）を設定ファイルと同じ形式で表示する。ALL オプションを指定した場合は、初期設定も含めてすべて表示する

パラメーター

DYNAMIC デフォルト値と異なる設定内容のみを表示する。指定しない場合、起動時設定ファイル名が表示される。module-name を指定した場合（例：SHOW CONFIG DYNAMIC=IP）は、デフォルト値と異なる該当モジュールの設定だけを表示する

ALL 初期設定を含めたすべての設定内容を表示する。module-name を指定した場合（例：SHOW CONFIG ALL=IP）は、該当モジュールの設定だけをすべて表示する

入力・出力・画面例

```
Manager > show config

Boot configuration file: system2.cfg (exists)
Current configuration: system.cfg

Manager GS900SS> show config dynamic

#
# SYSTEM configuration
#
set system name=GS900SS

#
# CONSOLE configuration
#

#
# VLAN configuration
#
```

```
#
# IP configuration
#
#
# STATIC MAC configuration
#
--More--  (<space> = next page, <CR> = one line, C = continuous, Q = quit)
```

Boot configuration file	次回起動時に実行される設定ファイル名。ファイルが存在する (exist) 存在しない (doesn't exist) も表示される
Current configuration	今回の起動時に実行された設定ファイル名。「None」の場合には、設定ファイルを読み込んでいない

表 25:

例

現在の、デフォルト値と異なる設定内容を表示する

```
SHOW CONFIG DYNAMIC
```

起動時設定ファイル名を表示する

```
SHOW CONFIG
```

関連コマンド

CREATE CONFIG (56 ページ)

SET CONFIG (102 ページ)

SHOW CONSOLE

カテゴリー：運用・管理

SHOW CONSOLE

解説

コンソール（ポート、ターミナル）および Telnet セッションに関する設定情報を表示する

入力・出力・画面例

```
Manager > show console

Console Information
-----
Console Password ..... Default
Page size ..... 22
Timeout ..... 300sec

Serial port
Status ..... Enabled
Data rate ..... 9600bps

Telnet
Status ..... Enabled
TCP port ..... 23/tcp
-----
```

Console Password	ログインパスワードの状態。初期パスワード（Default）または変更済み（Configured）
Page size	1 画面あたりに表示される行数
Timeout	ログインセッションで入力待ちの状態になってから切断するまでの時間、または切断しない（Disabled）
Serial port	コンソールポートの情報
Status	コンソールポートからログインできるかどうか。ログイン可（Enabled）または不可（Disabled）
Data rate	コンソールポートの通信速度。9600bps
Telnet	Telnet の情報を表示
Status	Telnet によるアクセス制限。ログイン可（Enabled）または不可（Disabled）
TCP port	Telnet サーバーのリスニング TCP ポート
Connection Limit	Telnet セッションの最大接続数

表 26:

例

コンソールの設定情報を表示する

```
SHOW CONSOLE
```

関連コマンド

SET ASYN (99 ページ)

SET CONSOLE (104 ページ)

SET TELNET (123 ページ)

SHOW DEBUG

カテゴリー：運用・管理

SHOW DEBUG

解説

デバッグ情報を表示する

入力・出力・画面例

```
Manager > show debug

SHOW SYSTEM
      :
SHOW FILE
      :
SHOW CONFIG DYNAMIC
      :
SHOW LOG
      :
SHOW CRASHLOG
```

例

デバッグ情報を表示する

SHOW DEBUG

SHOW FILE

カテゴリー：運用・管理

SHOW FILE [=filename]

filename: ファイル名またはファイル名パターン（ワイルドカード）。ワイルドカード（*）は filename の前後のいずれかに、1 つのみ使用できる

解説

ファイルシステム上のファイル一覧、あるいは指定したテキストファイルの内容を表示する

パラメーター

FILE 対象となるファイル名。省略時はファイル一覧を表示する。指定した場合、該当ファイルがテキストファイルならその内容が表示される

入力・出力・画面例

```
Manager > show file
```

Filename	Device	Size	Created	Attribute
aaa.cfg	flash	446	2008-02-15 10:00:45	script
bbb.cfg	flash	668	2008-02-15 12:56:24	script
memo.txt	flash	546	2008-02-15 11:05:17	data

```
Manager > show file=memo.txt
```

```
File : memo.txt
```

```
1:[How to transfer firmware with a FTP]
2:Assign me a valid IP address.
3:Run FTP command from client machine.
4:Log me in with your User and Password.
5:Move into @firmware directory using CD command (i.e. type cd @firmware).
:
```

Filename	ファイル名
Device	ファイルの格納場所。フラッシュメモリー（flash）のみ
Size	ファイルサイズ（バイト）

Created	ファイルの保存更新日時
Attribute	設定ファイル (script) またはデータファイル (data)。ファイル名の最後が「.cfg」か「.scp」の場合、設定ファイルとみなされる

表 27:

例

ファイル名とその情報を一覧表示する

```
SHOW FILE
```

ファイルの内容を表示する

```
SHOW FILE=memo.txt
```

拡張子.cfg の設定ファイル名を一覧表示する

```
SHOW FILE=*.cfg
```

test で始まるファイル名を一覧表示する

```
SHOW FILE=test*
```

関連コマンド

COPY (55 ページ)

DELETE FILE (61 ページ)

SHOW FTP

カテゴリー：運用・管理

SHOW FTP

解説

FTP サーバーの設定情報を表示する

入力・出力・画面例

```
Manager > show ftp

FTP Module Configuration:
-----
FTP Server                : Enabled
FTP Server Listen Port    : 21
-----
```

FTP Server	FTP サーバーの有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
FTP Server Listen Port	FTP サーバーのリスニング TCP ポート

表 28:

例

FTP サーバーの設定情報を表示する

SHOW FTP

関連コマンド

- DISABLE FTP SERVER (68 ページ)
- ENABLE FTP SERVER (78 ページ)
- SET FTP LISTENPORT (105 ページ)

SHOW HTTP SERVER

カテゴリー：運用・管理

SHOW HTTP SERVER

解説

HTTP サーバーの設定および状態を表示する。

入力・出力・画面例

```
Manager > show http server
```

```
HTTP Server Module Configuration:
```

```
-----  
Status                               : Enabled  
HTTP Server Listen Port              : 80  
-----
```

Status	HTTP サーバーの状態を表示する。有効(Enabled)または無効(Disabled)
HTTP Server Listen Port	HTTP サーバーの受信ポート番号を表示する

表 29:

例

HTTP サーバーのステータスを表示する

SHOW HTTP SERVER

関連コマンド

DISABLE HTTP SERVER (69 ページ)

ENABLE HTTP SERVER (79 ページ)

SET HTTP LISTENPORT (106 ページ)

SHOW INTERFACE

カテゴリー：運用・管理

SHOW INTERFACE [= {*ifindex*|*interface*|ALL}] [COUNTER]

ifindex: インターフェースのインデックス番号

interface: インターフェース名

解説

インターフェースの MIB 情報を表示する。

パラメーター

INTERFACE インターフェースのインデックス番号 (ifIndex) またはインターフェース名を指定。インデックス番号およびインターフェース名は、SHOW INTERFACE コマンドの「ifIndex」および「Interface」で確認できる。スイッチポートのインターフェース名は「portX」(X はポート番号) となる。省略時はすべてのインターフェースに関する情報が簡潔に表示される。指定時は、該当インターフェースの状態が詳細に表示される。ALL を指定した場合はすべてのインターフェースが対象となる

COUNTER インターフェースの統計カウンタを表示させるときに指定

入力・出力・画面例

```
Manager > show interface
```

Interfaces Information				sysUpTime:	00:00:32
ifIndex	Interface	ifAdminStatus	ifOperStatus	ifLinkUpDownTrap	ifLastChange

1	port1	Up	Down	Disabled	00:00:00
2	port2	Up	Down	Disabled	00:00:00
3	port3	Up	Down	Disabled	00:00:00
4	port4	Up	Down	Disabled	00:00:00
5	port5	Up	Down	Disabled	00:00:00
6	port6	Up	Down	Disabled	00:00:00
7	port7	Up	Down	Disabled	00:00:00
8	port8	Up	Down	Disabled	00:00:00
9	port9	Up	Down	Disabled	00:00:00
10	port10	Up	Down	Disabled	00:00:00
11	port11	Up	Down	Disabled	00:00:00
12	port12	Up	Down	Disabled	00:00:00
13	port13	Up	Down	Disabled	00:00:00
14	port14	Up	Down	Disabled	00:00:00
15	port15	Up	Down	Disabled	00:00:00
16	port16	Up	Down	Disabled	00:00:00

17	port17	Up	Down	Disabled	00:00:00
18	port18	Up	Down	Disabled	00:00:00
19	port19	Up	Down	Disabled	00:00:00
20	port20	Up	Down	Disabled	00:00:00
21	port21	Up	Down	Disabled	00:00:00
22	port22	Up	Down	Disabled	00:00:00
23	port23	Up	Down	Disabled	00:00:00
24	port24	Up	Down	Disabled	00:00:00

```

Manager > show interface=1

interface ..... port1
  ifIndex ..... 1
  ifMTU ..... 9196
  ifSpeed ..... 1000000000
  ifAdminStatus ..... Up
  ifOperStatus ..... Down
  ifLinkUpDownTrapEnable .. Disabled

Interface Counters

  ifInOctets      :          0      ifOutOctets      :          0
  ifInUcastPkts  :          0      ifOutUcastPkts  :          0
  ifInNUcastPkts :          0      ifOutNUcastPkts :          0
  ifInDiscards   :          0      ifOutDiscards   :          0
  ifInErrors     :          0      ifOutErrors     :          0

```

ifIndex	インターフェースのインデックス番号
Interface	インターフェース名。SET SWITCH PORT コマンドで設定したポート名称。 設定していない場合は、「portX」と表示
ifAdminStatus	管理者が設定したインターフェースの状態。「Up」、「Down」、「Testing」のいずれか
ifOperStatus	実際のインターフェースの動作状態。「Up」、「Down」、「Testing」のいずれか
ifLinkUpDownTrap	未サポート
ifLastChange	該当インターフェースが現在の動作状態になったときの sysUptime の値

表 30:

interface	インターフェース名。SET SWITCH PORT コマンドで設定したポート名称。設定していない場合は、「portX」と表示
ifIndex	インターフェースのインデックス番号
ifMTU	インターフェースの最大転送単位 (MTU) すなわち送信可能なパケットの最大サイズ

ifSpeed	インターフェースの帯域幅（推定）
ifAdminStatus	管理者が設定したインターフェースの状態。「Up」、「Down」、「Testing」のいずれか
ifOperStatus	実際のインターフェースの動作状態。「Up」、「Down」、「Testing」のいずれか
ifLinkUpDownTrapEnable	未サポート
Interface Counters	インターフェースの統計情報
ifInOctets	受信オクテット数
ifInUcastPkts	上位のレイヤーに配送されたユニキャストパケット数
ifInNUcastPkts	上位のレイヤーに配送された非ユニキャストパケット（ブロードキャストパケット/ マルチキャストパケット）数
ifInDiscards	バッファのオーバーフローなどで破棄された受信パケット数
ifInErrors	エラーを含んでいるために破棄された受信パケット数
ifOutOctets	送信オクテット数
ifOutUcastPkts	上位のレイヤーからの送信を要求されたユニキャストパケット数（破棄されたパケットも含む）
ifOutNUcastPkts	上位のレイヤーからの送信を要求された非ユニキャストパケット（ブロードキャストパケット/ マルチキャストパケット）数（破棄されたパケットも含む）
ifOutDiscards	バッファのオーバーフローなどで破棄された送信パケット数
ifOutErrors	エラーを含んでいるために破棄された送信パケット数

表 31: 統計情報

例

インターフェースの情報を表示する

```
SHOW INTERFACE
```

インターフェース 1 の統計情報を表示する

```
SHOW INTERFACE=1 COUNTER
```

関連コマンド

DISABLE SNMP TRAP
ENABLE SNMP TRAP

SHOW LOG

カテゴリー：運用・管理

SHOW LOG [DATE=[*op*] date] [TIME=[*op*] time] [SEVERITY=[*op*] severity]
[REVERSE [=count]] [TAIL [=count]]

op: 比較演算子。小さい [<]、大きい [>]、等しくない [!]、等しい [=] (何も指定しない) のいずれか

date: メッセージの日付。省略するとすべての日付となる。yyyy-mm-dd の形式。yyyy は西暦年、mm は月 (1~12)、dd は日、(1~31)

time: メッセージの時刻。省略するとすべての時刻となる。hh:mm:ss の形式。hh は時 (0~23)、mm は分 (0~59)、ss は秒 (0~59)

severity: ログレベル (0~7)。省略するとすべてのログレベルとなる

count: 表示する件数 (1~3000)

解説

ログを表示する。各種条件を指定して表示項目を絞りこむこともできる。Ctrl+C で中止できる

パラメーター

DATE メッセージの日付 (システム起動時に SNTP モジュールが有効の場合) または、SysUpTime の日数 (システム起動時に SNTP モジュールが無効の場合)

TIME メッセージの時刻。時計の時刻 (システム起動時に SNTP モジュールが有効の場合) または、SysUpTime (システム起動時に SNTP モジュールが無効の場合)

SEVERITY メッセージのログレベル

REVERSE ログメッセージを逆順 (新しい順) に表示する。count を指定した場合、ログメッセージが新しい順から指定数表示される。count 省略時はすべてのメッセージが表示される。REVERSE を指定した場合、TAIL は指定できない

TAIL 最新のログメッセージだけを表示する。count を指定した場合、新しいログメッセージが指定数表示される。count 省略時は最新の 20 メッセージが表示される。TAIL を指定した場合、REVERSE は指定できない

入力・出力・画面例

```
Manager > show log
```

```
Days Time      Lv Message
```

```
-----
000 00:00:24 7   Switch startup, Ver 1.4.1 B05 Feb 15 2008, 12:32:35
000 00:00:26 6   Port 2: interface is up
000 00:00:26 3   User login on serial port
000 00:01:29 3   User login on GUI from 192.168.1.101
000 01:11:49 6   Port 2: interface is down
```


006	05:17:16	6	Port 2: interface is up
006	05:17:53	3	User login on GUI from 192.168.1.101
006	05:34:32	6	Port 2: interface is down

Manager > show log			
Date	Time	Lv	Message

2008-03-03	11:23:17	7	Switch startup, Ver 1.4.1 B05 Feb 15 2008, 12:32:35
2008-03-03	11:23:17	6	Port 1: interface is up
2008-03-03	11:23:17	3	User login on serial port

Days	メッセージの生成日（システム起動時からの日数）
Time	メッセージの生成時刻（システム起動時からの経過時間、SysUpTime）
Lv	ログレベル
Message	メッセージ内容

表 32: SNTP モジュール無効時

Date	メッセージの生成日（SNTP サーバーから取得した日付）
Time	メッセージの生成時刻（SNTP サーバーから取得した時刻）
Lv	ログレベル
Message	メッセージ内容

表 33: SNTP モジュール有効時

例

履歴情報を参照する

SHOW LOG

備考・注意事項

SNTP サーバーから取得した日付・時刻を表示させるためには、SNTP モジュールを有効にした後にシステムの再起動が必要

SNTP モジュールが有効であっても、SNTP サーバーからの情報取得に失敗した場合は、デフォルト時間の 2005 年 1 月 1 日の日付と、2005 年 1 月 1 日 0:0:0 からの経過時間を表示

関連コマンド

DISABLE LOG OUTPUT (71 ページ)
ENABLE LOG OUTPUT (81 ページ)
FLUSH LOG OUTPUT (87 ページ)
PURGE LOG (91 ページ)
SET LOG OUTPUT (107 ページ)
SHOW LOG COUNTER (147 ページ)
SHOW LOG OUTPUT (149 ページ)
SHOW LOG STATUS (151 ページ)

SHOW LOG COUNTER

カテゴリー：運用・管理

SHOW LOG COUNTER

解説

ログ機能の診断カウンターを表示する

入力・出力・画面例

```
Manager > show log counter
```

```
Log Counters
```

```
-----
Message Generated           :          15
Message Processed TEMPORARY :          15
Message Processed SYSLOG    :           0
-----
```

Messages Generated	生成ログメッセージ数
Message Processed TEMPORARY	メモリーに記録されたメッセージ数
Message Processed SYSLOG	syslog サーバーに送信されたメッセージ数

表 34:

例

ログ機能の診断カウンターを表示する

```
SHOW LOG COUNTER
```

関連コマンド

DISABLE LOG OUTPUT (71 ページ)

ENABLE LOG OUTPUT (81 ページ)

FLUSH LOG OUTPUT (87 ページ)

PURGE LOG (91 ページ)

SET LOG OUTPUT (107 ページ)

SHOW LOG (144 ページ)

SHOW LOG OUTPUT (149 ページ)

SHOW LOG STATUS (151 ページ)

SHOW LOG OUTPUT

カテゴリー：運用・管理

SHOW LOG OUTPUT

解説

ログ出力先の設定内容を表示する

入力・出力・画面例

Manager > show log output

Output	Type	Status	Server	Port	Msg	LogLv	Facility
TEMPORARY	RAM	Enabled	-	-	3000	>3	-
SYSLOG	SYSLOG	Disabled	Not set	514	-	>3	DEFAULT

Output	ログ出力定義名。メモリー（TEMPORARY）または syslog サーバー（SYSLOG）
Type	ログ出力先の概要。メモリー（RAM）または syslog サーバー（SYSLOG）
Status	ログ出力先としての有効（Enabled）または無効（Disabled）
Server	ログ出力先に SYSLOG を指定している場合、サーバーの IP アドレス
Port	ログ出力先に SYSLOG を指定している場合、syslog サーバーのリスニング UDP ポート番号
Msg	該当出力定義においてキューに格納できる最大メッセージ数
LogLv	該当出力定義において処理されるログレベル。0～7
Facility	ファシリティ値。DEFAULT または設定値を表示

表 35:

例

ログ出力先の設定内容を表示する

SHOW LOG OUTPUT

関連コマンド

- DISABLE LOG OUTPUT (71 ページ)
- ENABLE LOG OUTPUT (81 ページ)
- FLUSH LOG OUTPUT (87 ページ)

PURGE LOG (91 ページ)

SET LOG OUTPUT (107 ページ)

SHOW LOG (144 ページ)

SHOW LOG COUNTER (147 ページ)

SHOW LOG STATUS (151 ページ)

SHOW LOG STATUS

カテゴリー：運用・管理

SHOW LOG STATUS

解説

ログ機能の設定情報を表示する

入力・出力・画面例

```
Manager > show log status
```

```
Log System Status
```

```
-----
Log Module Status ..... Enabled
Log Message Generation ..... Enabled
Temporary Output ..... Enabled
Syslog Output ..... Disabled
Next Message ID ..... 5
Number of Output Definitions ... 2
-----
```

Log Module Status	ログ機能の有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
Log Message Generation	ログ生成の有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
Temporary Output	ログ出力 (TEMPORARY) の有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
Syslog Output	ログ出力 (SYSLOG) の有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
Next Message ID	次のメッセージ ID
Number of Output Definitions	定義済み出力先数。常に 2 (TEMPORARY と SYSLOG)

表 36:

例

ログ機能の設定情報を表示する

```
SHOW LOG STATUS
```

関連コマンド

DISABLE LOG OUTPUT (71 ページ)

ENABLE LOG OUTPUT (81 ページ)

FLUSH LOG OUTPUT (87 ページ)

PURGE LOG (91 ページ)

SET LOG OUTPUT (107 ページ)

SHOW LOG (144 ページ)

SHOW LOG COUNTER (147 ページ)

SHOW LOG OUTPUT (149 ページ)

SHOW NTP

カテゴリー：運用・管理

SHOW NTP

解説

SNTP の設定情報を表示する。

入力・出力・画面例

```
Manager > show ntp
```

NTP Module Configuration

```
Status                : Enabled
Host Address          : 192.168.1.5
UTC Offset             : +09:00:00 (JST)
Last Updated          : 2008-03-03 at 11:23:16
Last Delta             : 0
```

```
Configured Peer        : 192.168.1.1
NTP Server Listen Port : 123
```

Counters

```
Packets Sent           : 0000000001
Packets Received        : 0000000001
Packets w/head error    : 0000000000
Packets w/data error    : 0000000000
```

Status	SNTP モジュールの状態 (Enabled か Disabled)
Host Address	SNTP ポートの IP アドレス
UTC Offset	協定世界時 (UTC) からのオフセット
Last Updated	SNTP による内蔵時計の最終更新日時
Last Delta	最終更新時の内蔵時計の修正量 (誤差)
Configured Peer	SNTP サーバーの IP アドレス
NTP Server Listen Port	SNTP サーバーのリスニング UDP ポート
Packets Sent	送信 SNTP パケット数
Packets Received	受信 SNTP パケット数
Packets w/ head error	受信 SNTP パケットのうちヘッダーエラーがあったものの数

Packets w/ data error	受信 SNTP パケットのうちデータエラーがあったものの数。SNTP パケットの受信がタイムアウトとなった場合カウントアップする
-----------------------	--

表 37:

例

SNTP の設定情報を表示する

```
SHOW NTP
```

関連コマンド

ADD NTP PEER (49 ページ)
 DELETE NTP PEER (62 ページ)
 DISABLE NTP (72 ページ)
 ENABLE NTP (82 ページ)
 PURGE NTP (93 ページ)
 RESET NTP (94 ページ)
 SET NTP (110 ページ)

SHOW RADIUS

カテゴリー：運用・管理

SHOW RADIUS

解説

RADIUS (Remote Authentication Dial In User Server) サーバーの一覧を表示する。SHOW AUTHENTICATION コマンドと同じ

入力・出力・画面例

```

Manager > show radius

RADIUS Server Parameters
-----
Server Retransmit Count..... 3
Server Timeout..... 6 sec
Server Dead Time..... 0 min
Server Dead Action..... Deny
-----

RADIUS Servers:
Server IP Address Auth Port  Encryption Key Auth Req  Auth Resp Status
-----
0.0.0.0           1812      <Not Defined>  0         0         Alive
0.0.0.0           1812      <Not Defined>  0         0         Alive
-----

```

Server Retransmit Count	RADIUS サーバー宛て通信の再送回数
Server Timeout	RADIUS サーバー宛て通信の応答待ち時間
Server Dead Time	RADIUS サーバー宛て通信の切り戻しスリープ時間
Server Dead Action.	RADIUS サーバーが無応答の時、通信を 許可する/許可しない を表示。
Server IP Address	RADIUS サーバーの IP アドレス
Auth Port	RADIUS サーバーの認証用 UDP ポート番号
Encryption Key	サーバー個別のパスワード
Auth Req	RADIUS サーバーに対して送った認証リクエストの数
Auth Resq	RADIUS サーバーから受け取った返信の数

表 38:

例

RADIUS サーバーの一覧を表示する

SHOW RADIUS

関連コマンド

ADD RADIUSSERVER SERVER (50 ページ)

DELETE RADIUSSERVER SERVER (63 ページ)

SHOW RADIUSACCOUNTING

カテゴリー：運用・管理

SHOW RADIUSACCOUNTING

解説

RADIUS (Remote Authentication Dial In User Server) サーバーのアカウントिंग機能の設定を表示する

入力・出力・画面例

```
Manager > show radiusaccounting

Radius Accounting Configuration
-----
Radius Accounting Status .....: Disabled
Radius Accounting Port.....: 1813
Radius Accounting Type.....: Network
Radius Accounting Trigger Type.....: Start_Stop
Radius Accounting Update Status.....: Disabled
Radius Accounting Update Interval....: 60
```

Radius Accounting Status	アカウントिंग機能の状態。Enabled か Disabled
Radius Accounting Port	RADIUS サーバーのアカウントिंग用 UDP ポート番号
Radius Accounting Type	アカウントング情報を転送して蓄積する場所。NETWORK (アカウントングサーバー) のみ
Radius Accounting Trigger Type	アカウントング要求パケットをサーバーの送出するタイミング。START_STOP か STOP_ONLY
Radius Accounting Update Status	ユーザーが利用中に、利用状況をサーバーに送信するアカウントング要求 (インターリム) パケットを送信するかどうか。Enabled か Disabled
Radius Accounting Update Interval	インターリムパケットを送信する間隔

表 39:

例

RADIUS サーバーのアカウントング機能の設定を表示する

SHOW RADIUSACCOUNTING

関連コマンド

DISABLE RADIUSACCOUNTING (73 ページ)

ENABLE RADIUSACCOUNTING (83 ページ)

SET RADIUSACCOUNTING (116 ページ)

SHOW SNMP

カテゴリー：運用・管理

SHOW SNMP

解説

SNMP モジュールの情報を表示する

入力・出力・画面例

```

Manager > show snmp

SNMP Module Configuration:
-----
Status                        : Disabled
SNMP Manager Listen Port     : 161
SNMPTRAP Listen Port        : 162
-----

SNMP counters:
-----
inPkts           :          0    outPkts           :          0
inBadVersions    :          0    outTooBigs      :          0
inBadCommunityNames :          0  outNoSuchNames  :          0
inBadCommunityUses :          0    outBadValues   :          0
inASNParseErrs   :          0    outGenErrs     :          0
inTooBigs        :          0    outGetRequests :          0
inNoSuchNames    :          0    outGetNexts    :          0
inBadValues      :          0    outSetRequests :          0
inReadOnlyls     :          0    outGetResponses :          0
inGenErrs        :          0    outTraps       :          0
inTotalReqVars   :          0
inTotalSetVars   :          0
inGetRequests    :          0
inGetNexts       :          0
inSetRequests    :          0
inGetResponses   :          0
inTraps          :          0

```

Status	SNMP モジュールの状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
SNMP Manager Listen Port	SNMP (get/set) の UDP ポート
SNMPTRAP Listen Port	未サポート
inPkts	受信 SNMP パケット数

inBadVersions	未サポートのバージョン番号を持つ SNMP メッセージの受信総数
inBadCommunityNames	不明なコミュニティ名を持つ SNMP メッセージの受信総数
inBadCommunityUses	コミュニティ名とオペレーションの権限が一致しない SNMP メッセージの受信総数
inASNParseErrs	ASN.1 構文エラーによりデコードできなかった SNMP メッセージの受信総数
inTooBigs	エラー状態フィールドに「tooBig」がセットされていた SNMP メッセージの受信総数。常に 0 を表示
inNoSuchNames	エラー状態フィールドに「noSuchName」がセットされていた SNMP メッセージの受信総数。常に 0 を表示
inBadValues	エラー状態フィールドに「badValue」がセットされていた SNMP メッセージの受信総数。常に 0 を表示
inReadOnly	エラー状態フィールドに「readOnly」がセットされていた SNMP メッセージの受信総数。常に 0 を表示
inGenErrs	エラー状態フィールドに「genErr」がセットされていた SNMP メッセージの受信総数。常に 0 を表示
inTotalReqVars	受信した GetRequest および GetNextRequest メッセージに応じて読み出された MIB オブジェクトの合計数
inTotalSetVars	受信した SetRequest メッセージに応じて変更された MIB オブジェクトの合計数
inGetRequests	受信した GetRequest メッセージの総数
inGetNexts	受信した GetNextRequest メッセージの総数
inSetRequests	受信した SetRequest メッセージの数
inGetResponses	受信した GetResponse メッセージの総数。常に 0 を表示
inTraps	受信した SNMP トラップの総数。常に 0 を表示
outPkts	送信 SNMP パケット数
outTooBigs	エラー状態フィールドに「tooBig」をセットして送信された SNMP メッセージの数。常に 0 を表示
outNoSuchNames	エラー状態フィールドに「noSuchName」をセットして送信された SNMP メッセージの数
outBadValues	エラー状態フィールドに「badValue」をセットして送信された SNMP メッセージの数
outGenErrs	エラー状態フィールドに「genErr」をセットして送信された SNMP メッセージの数
outGetRequests	送信した GetRequest メッセージの総数。常に 0 を表示
outGetNexts	送信した GetNextRequest メッセージの総数。常に 0 を表示
outSetRequests	送信した SetRequest メッセージの総数。常に 0 を表示
outGetResponses	送信した GetResponse メッセージの総数
outTraps	未サポート

表 40:

例

SNMP モジュールの情報を表示する

SHOW SNMP

関連コマンド

DISABLE SNMP (74 ページ)

ENABLE SNMP (84 ページ)

SET SNMP LISTENPORT (120 ページ)

SHOW SNMP COMMUNITY

カテゴリー：運用・管理

SHOW SNMP COMMUNITY [= {*community* | ALL}]

community: SNMP コミュニティ名

解説

SNMP コミュニティの情報を表示する

パラメーター

COMMUNITY SNMP コミュニティ名

入力・出力・画面例

```
Manager > show snmp community
```

```
SNMP community information:
```

Name	Status	Traps	Access	OpenAccess
public	Enabled	Disabled	read-only	Yes
private	Enabled	Disabled	read-write	No
test	Disabled	Disabled	read-only	Yes

```
Manager > show snmp community=public
```

```
SNMP community information:
```

```
-----
Name ..... public
Access ..... read-only
Status ..... Enabled
Trap Status ..... Disabled
Open Access ..... No
Traps ..... COLDSTART, WARMSTART, AUTHENTICATION, LINK
              FAN, TEMPERATURE, VOLTAGE, NEWROOT, TOPOLOGYCHANGE
              LOOPDETECTION, STORMDETECTION, EPSR, LOGIN
Manager ..... 192.168.1.1
Trap Host ..... -
-----
```

Name	コミュニティー名
Status	コミュニティーの状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
Traps	未サポート
Access	アクセス権。読み出しのみ (read-only) または読み書き可能 (read-write)
OpenAccess	管理ステーションからのアクセス。すべてのホストからのアクセスを許可 (Yes) または指定した管理ステーションからのアクセスのみ許可 (No)

表 41:

Name	コミュニティー名
Access	アクセス権。読み出しのみ (read-only) または読み書き可能 (read-write)
Status	コミュニティーの状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
Open Access	管理ステーションからのアクセス。すべてのホストからのアクセスを許可 (Yes) または指定した管理ステーションからのアクセスのみ許可 (No)
Traps	未サポート
Manager	本コミュニティーでアクセスを許可された管理ステーションの IP アドレス
Trap Host	未サポート

表 42: COMMUNITY オプション指定時

例

SNMP コミュニティー情報を一覧表示する

```
SHOW SNMP COMMUNITY
```

SNMP コミュニティー「public」の情報を表示する

```
SHOW SNMP COMMUNITY=public
```

関連コマンド

ADD SNMP COMMUNITY (51 ページ)
 CREATE SNMP COMMUNITY (57 ページ)
 DELETE SNMP COMMUNITY (64 ページ)
 DESTROY SNMP COMMUNITY (66 ページ)
 DISABLE SNMP COMMUNITY (75 ページ)
 DISABLE SNMP COMMUNITY TRAP
 ENABLE SNMP COMMUNITY (85 ページ)
 ENABLE SNMP COMMUNITY TRAP
 SET SNMP COMMUNITY (118 ページ)

SHOW SYSTEM

カテゴリー：運用・管理

SHOW SYSTEM

解説

システム情報を表示する

入力・出力・画面例

```

Manager > show system

Switch System Status                               Date 2012-06-26 Time 15:30:02
Board      Bay      Board Name
-----
Base       -        GS924SS
-----
Memory -   DRAM : 32768 kB  FLASH : 8192 kB  MAC : 00-09-24-00-02-01
-----
SysDescription : CentreCOM GS924SS Ver 1.6.19 B03
SysContact     :
SysLocation    :
SysName        :
SysUpTime      : 13521(00:02:15)
Release Version : 1.6.19
Release built   : B03 (Jun  8 2012 at 17:07:24)

Flash PROM     : Good
RAM            : Good
SW chip        : Good
UART           : Good

FAN1           : Normal          FAN2           : Normal
1.25V          : Normal          1.8V           : Normal
2.5V           : Normal          3.3V           : Normal
5.0V           : Normal          Temperature     : Normal

Configuration
Boot configuration file : Not set
Current configuration   : None

Manager >

```

Board	Base、Expansion、Engine、GenericIO、IO Module、IC Module、MAC のいずれか
-------	--

Bay	常に「-」
Board Name	製品（部品）の名称
DRAM	実装されている DRAM メモリーの容量
FLASH	実装されているフラッシュメモリーの容量
MAC	製品の MAC アドレス
SysDescription	製品およびファームウェアの概要
SysContact	管理責任者
SysLocation	設置場所
SysName	システム名
SysUpTime	稼働時間（前回リブートしてからの時間）
Release Version	ファームウェアのバージョン
Release built	ファームウェアのビルト
Flash PROM	フラッシュメモリーの プログラムデータチェックサム演算、照合結果。 Good/Failed
RAM	ブート時の RAM テスト結果。Good/Failed
SW chip	ブート時のスイッチチップテスト結果。Good/Failed
UART	ブート時の UART テスト結果。Good/Failed
FAN1,2	ファンの状態。Normal/Warning/Failed（読みとり失敗）（GS908SS では表示しない）
System power	本製品の 1.25V/1.8V/2.5V/3.3V/5.0V の供給電圧状態。Normal/Warning/Failed（読みとり失敗）（GS908SS では 5V の表示はしない。2.5V は、2.5V(A).2.5V(B) の 2 系統表示）
Temperature	本製品内部の温度状態。Normal/Warning/Failed（読みとり失敗）
Boot configuration file	次回起動時に実行される設定ファイル名。ファイルが存在する（exist）が存在しないか（doesn't exist）も表示される
Current configuration	今回の起動時に実行された設定ファイル名。「None」の場合には、設定ファイルを読み込んでいない

表 43:

例

システムの情報を表示する

SHOW SYSTEM

SHOW TELNET

カテゴリー：運用・管理

SHOW TELNET

解説

Telnet サーバーの設定情報を表示する

入力・出力・画面例

```
Manager > show telnet
```

```
TELNET Module Configuration:
```

```
-----  
TELNET Server           : Enabled  
TELNET Server Listen Port : 23  
TELNET Connection Limit  : 4  
-----
```

TELNET Server	Telnet サーバーの状態。有効 (Enabled) または無効 (Disabled)
TELNET Server Listen Port	Telnet サーバーのリスニング TCP ポート
TELNET Connection Limit	Telnet セッションの最大接続数

表 44:

例

Telnet サーバーの設定情報を表示する

```
SHOW TELNET
```

関連コマンド

DISABLE TELNET SERVER (76 ページ)

ENABLE TELNET SERVER (86 ページ)

SET TELNET (123 ページ)

SHOW TIME

カテゴリー：運用・管理

SHOW TIME

解説

現在の日付と時刻を表示する。

入力・出力・画面例

```
Manager > show time  
  
System time is 2008-02-15 Friday at 10:00:21
```

例

現在の日付と時刻を表示する

SHOW TIME

関連コマンド

SET TIME (125 ページ)